

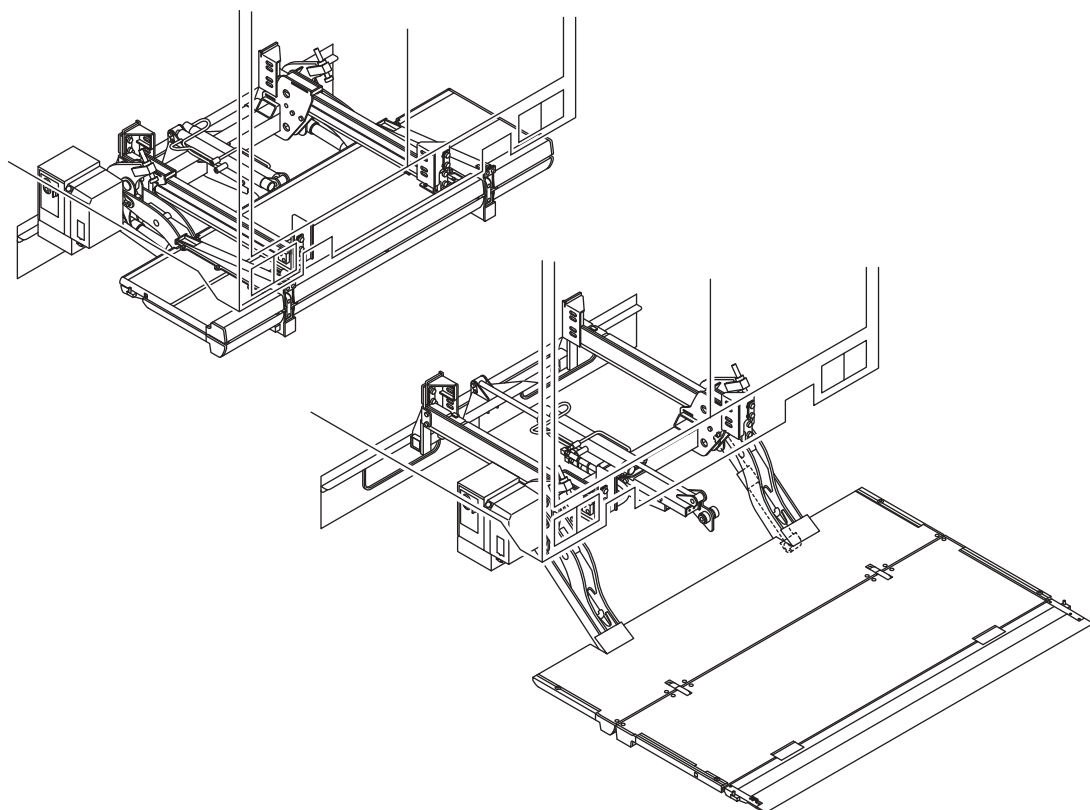
かくのうリフト 取扱説明書

PRAK 10-649※シリーズ

- ご使用の前に必ず本書をよくお読みください。
- 本書は、いつでも読み返せるように、お車の中に大切に保管してください。
- お車を譲られる場合、本書を次のオーナーのために、お車につけておいてください。

はじめに

このたびはパブコの「かくのうリフト」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本書は、「かくのうリフト」の正しい取扱い方法や点検・手入れについて説明しています。



RAK-001

● ご使用の前に必ずお読みください

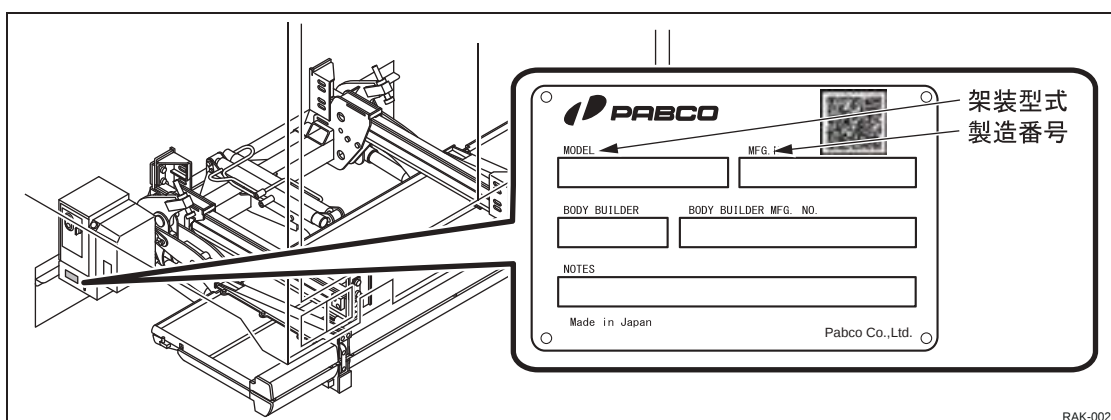
- ご使用の前に必ず本書をお読みいただき安全で正しい取扱いを行ってください。取扱い方法や点検・手入れを誤りますと、事故や故障の原因になります。また、本書に記載された取扱い、点検、手入れなどを守られない場合は、保証に応じられない場合があります。
- 「警告サインについて」の区分により説明している内容は重要です。これらを守らないと傷害や事故の原因になります。
- 車両本体（シャシ）や他の装置がある場合には、それぞれの取扱説明書（別冊）も併せてお読みください。
- 本書は、いつでも読み返せるように、お車の中に大切に保管してください。
- お車を譲られる場合、本書を次のオーナーのために、お車につけておいてください。
- 本書中で★印の付いた装置はオプション仕様になるため、お客様の仕様により装着されていない場合がありますので、ご了承ください。
- 仕様変更などにより車両（架装物）と本書の内容が一致しない場合がありますので、ご了承ください。

● 使用目的について

- ・ 本装置は荷物の積み降ろし作業を効率よく行うためのものです。荷物の積み降ろし以外には、ご使用にならないでください。また、改造などは絶対に行わないでください。もし、改造に起因する不具合が発生した場合、保証に応じられない場合があります。
- ・ 本装置には、整備や故障時の対応を目的として使用回数、使用時間およびエラー情報を蓄積する機能を有しています。この情報は、本来の使用目的以外には使用いたしません。

● ご相談について

- ・ 本書をお読みになってご不明な点、お使いになって不審な点、装置の異常や故障および調整・部品交換の必要が生じた場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。
- ・ お問い合わせのときは、銘板（製造プレート）の架装型式および製造番号をお知らせください。



● 警告サインについて

本書では、次のマークを使用しています。これらのマークがついた項目は、安全上 特に重要なものや、参考にしていただきたい情報ですので、必ずお読みください。なお、本装置に貼り付けられている警告ラベルには重要事項が記載されていますので、必ずお読みください。

⚠ 危険 : 取扱いを誤った場合、死亡または重傷につながる事項です。

⚠ 警告 : 取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性のある事項です。

⚠ 注意 : 取扱いを誤った場合、軽傷および物的損傷の可能性のある事項です。

参考 : 車の損傷防止、性能を維持するために守っていただきたい事項です。

● 本文中イラストの表現について

○ : 正しい操作方法、状態をイラストとして表しています。

× : 間違った操作方法、状態をイラストとして表しています。

● 架装型式一覧

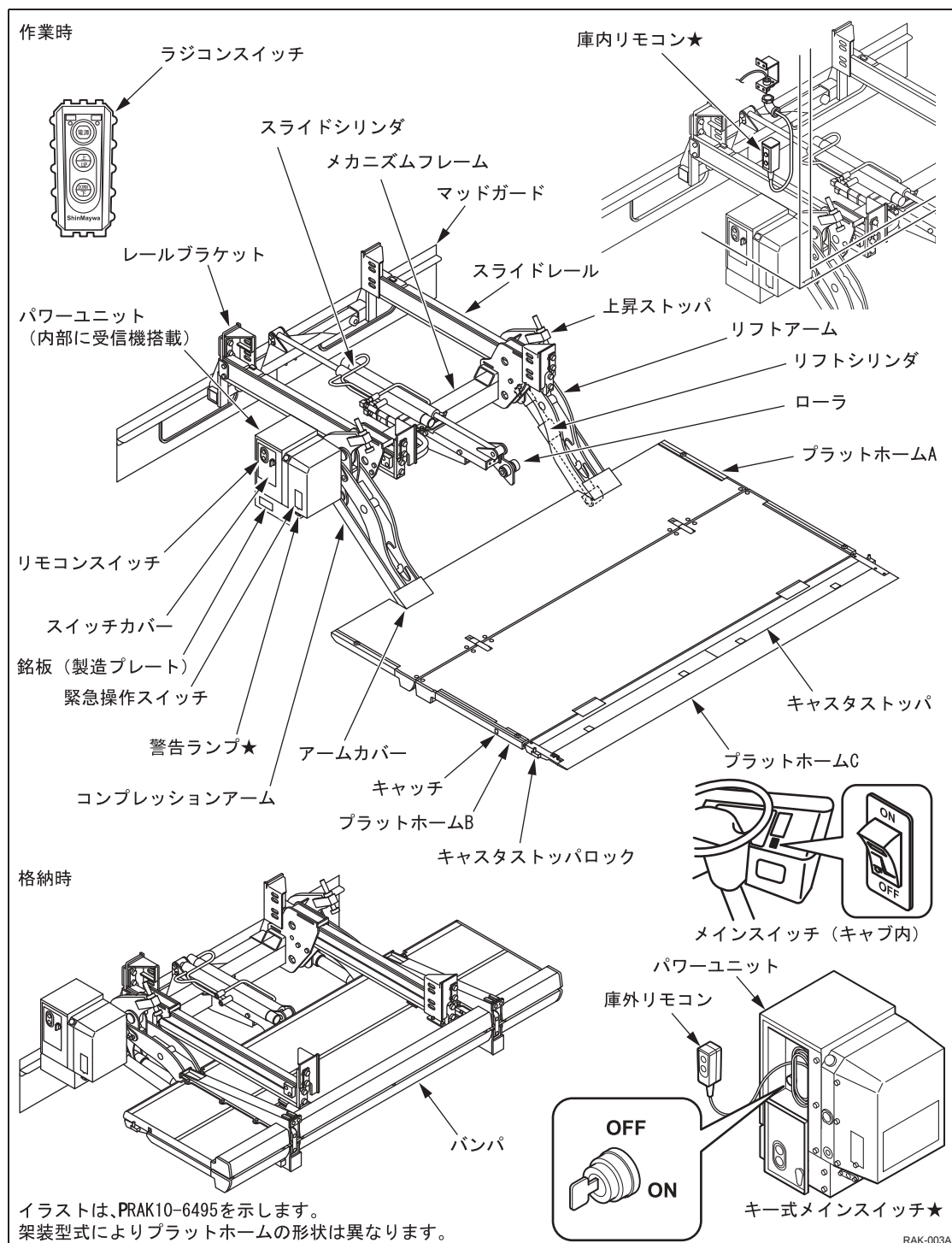
本書は下記のモデルについて説明をしています。

架装型式	PRAK10-649※
------	-------------

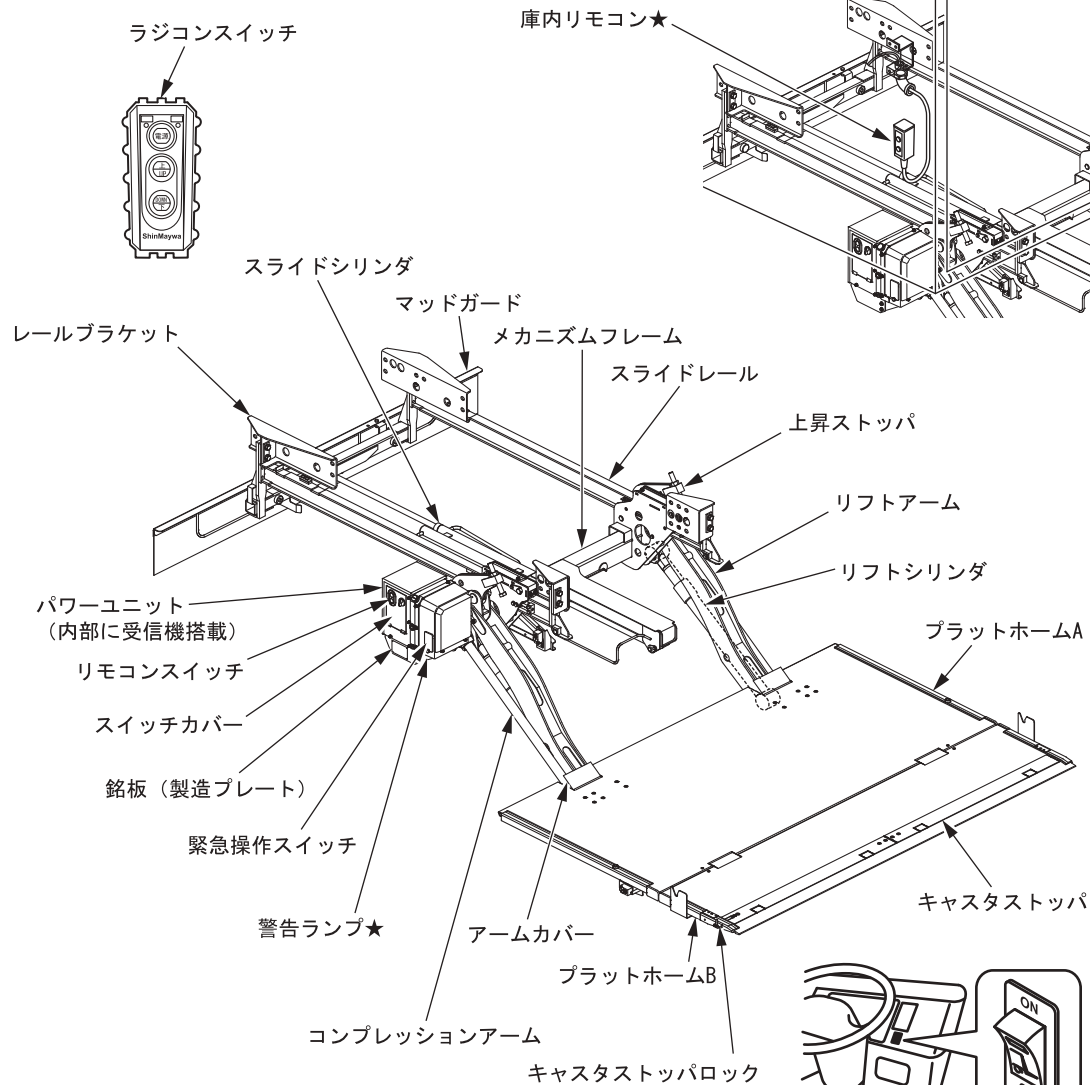
(※は、モデルにより異なります)

● 各部の名称

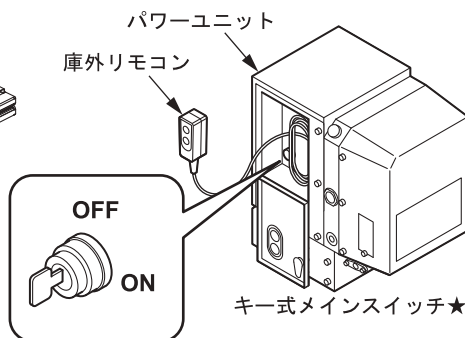
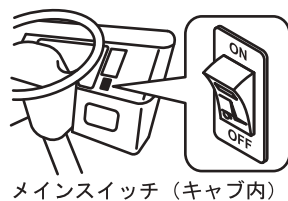
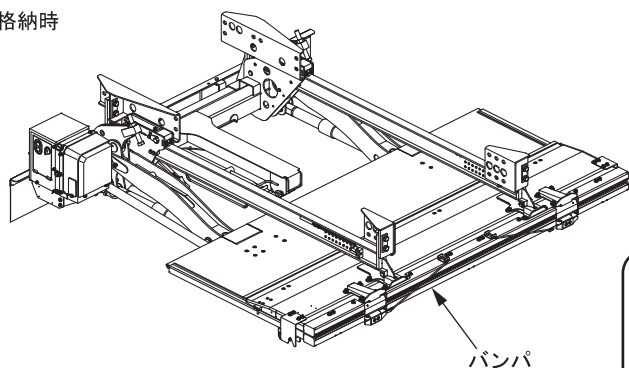
PRAK10-6496DL以外



作業時



格納時



RAK-098A

目次

1. 安全にお使いいただくために	11	1
2. 主要諸元	29	2
3. 各部の操作	33	3
4. 操作方法	39	4
5. 日常点検とお手入れ	51	5
6. 点検整備方式	59	6
7. 給油脂	65	7
8. その他関連情報	71	8
9. 残留リスクについて	75	9

■ 詳細目次

1. 安全にお使いいただくために 11

- 1-1. 安全を守るために 12
 - 安全へのインフォメーション 12
 - 安全教育の励行 12
 - 作業計画の励行 12
 - 日常点検の実施 12
 - 定期点検の実施 13
- 1-2. 走行時の注意事項 14
 - 安全に走行するために 14
- 1-3. 作業時の注意事項 15
 - 安全に作業するために 15
- 1-4. 日常の注意事項 23
 - 日常のお手入れについて 23
 - パワーユニットについて 24
 - ラジコンスイッチ、リモコンスイッチ 24
- 1-5. 警告ラベルの記載事項の遵守と交換について 27

2. 主要諸元 29

- 2-1. 昇降質量表 30
- 2-2. 適用可能台車全長 30
- 2-3. プラットホーム渡り板使用時の段差範囲 31

3. 各部の操作 33

- 3-1. メインスイッチ 34
 - メインスイッチ（キャブ内） 34
 - キー式メインスイッチ★ 34
- 3-2. ラジコンスイッチ 34
- 3-3. リモコンスイッチ 35
 - 庫外リモコン 35
 - 庫内リモコン★ 35
- 3-4. 緊急操作スイッチ 36

3-5. キャスタストッパロック	36
3-6. 床面手動チルト機構★	37
3-7. 警告ランプ★	38
● 装置が作動せず警告ランプ★が点灯する場合	38
● 装置は作動するが警告ランプ★が点灯する場合	38

4. 操作方法 39

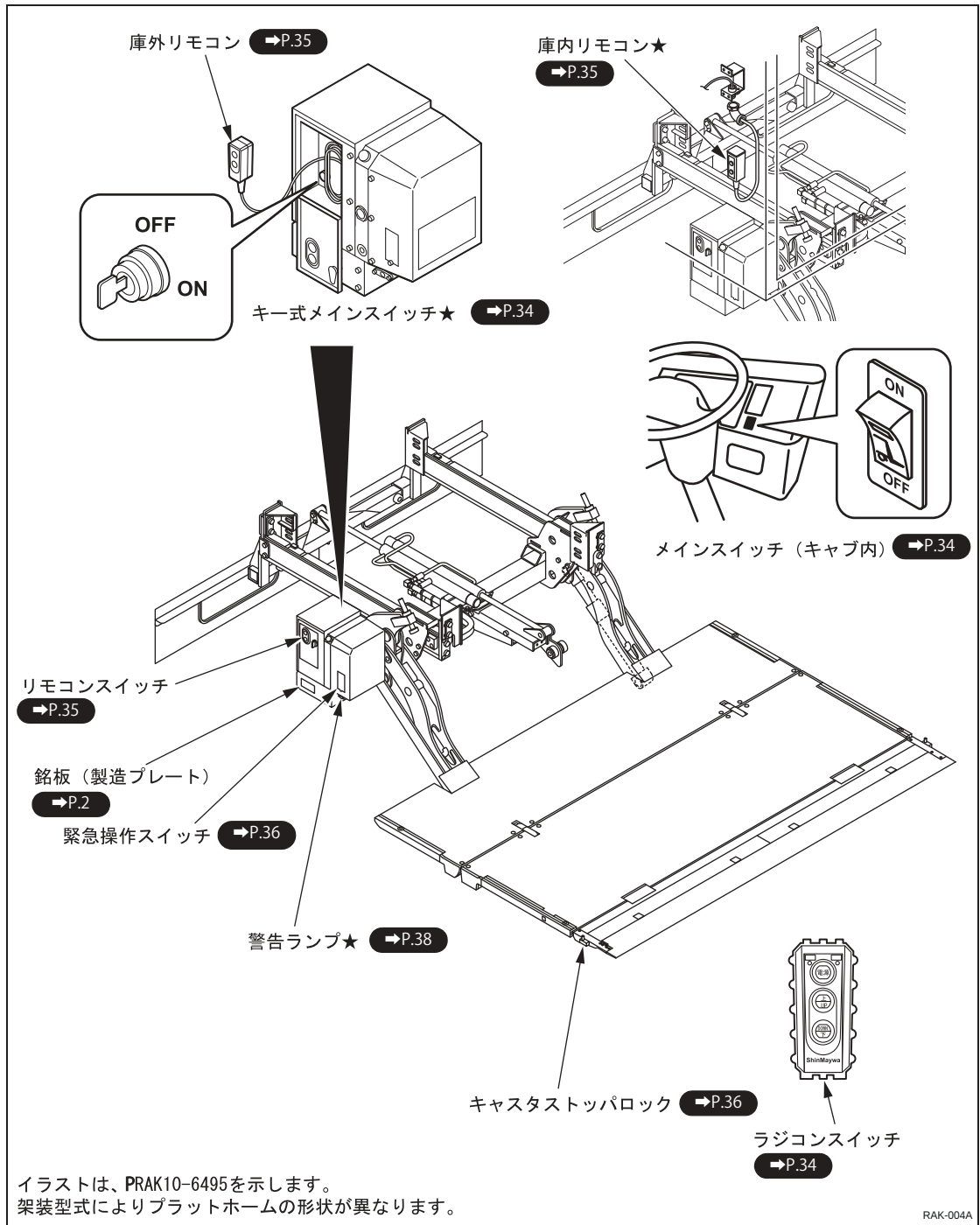
4-1. 作業準備	40
4-2. プラットホームの引出し	40
● メインスイッチ操作	40
● 引出し操作	41
● 接地時のプラットホーム傾斜操作	42
● キャスタストッパの使用	42
4-3. プラットホームの昇降	42
● プラットホームの水平操作	42
● プラットホームの上げ操作	43
● プラットホームの途中停止	43
● プラットホームの下げ操作	43
4-4. プラットホームの格納	44
4-5. プラットホームの緊急操作	46
● プラットホームの作動不具合現象	46
● 緊急操作方法	47

5. 日常点検とお手入れ 51

5-1. 安全を守るために	52
● 日常点検	52
● 点検および手入れの準備	52
5-2. 点検	52
● 作動油の点検	52
● 高圧ホースの点検	52
● スライド動作の点検	53
● スライドパッドの点検	53
● スクレーパの点検	53
● コンプレッションアームの点検	54

● 作動油の交換	54
● 高圧ホースの交換	54
● ヒューズの交換	54
● ラジコンスイッチの電池交換	55
● ラジコンスイッチの交換	56
5-3. トラブルシューティング	57
6. 点検整備方式	59
6-1. 定期点検	60
● 定期点検の実施	60
6-2. 定期交換部品	60
● 定期交換部品	60
6-3. 定期点検整備	61
● 定期点検整備チェックリスト	61
7. 給油脂	65
7-1. 適用グリース	66
7-2. 給油脂箇所	66
8. その他関連情報	71
8-1. 架装物の安全点検制度	72
8-2. 環境基準適合および解体マニュアル	73
9. 残留リスクについて	75
9-1. 機械ユーザーによる保護方策が必要な 残留リスク一覧	76
9-2. 残留リスクマップ	85
9-3. 事故情報提供のお願い	86

■イラスト目次



M E M O

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is white with a thin black border and occupies the majority of the page below the title.

1.安全にお使いいただくために

1

1-1. 安全を守るために.....12

- 安全へのインフォメーション.....12
- 安全教育の励行.....12
- 作業計画の励行.....12
- 日常点検の実施.....12
- 定期点検の実施.....13

1-2. 走行時の注意事項.....14

- 安全に走行するために.....14

1-3. 作業時の注意事項.....15

- 安全に作業するために.....15

1-4. 日常の注意事項.....23

- 日常のお手入れについて.....23
- パワーユニットについて.....24
- ラジコンスイッチ、リモコンスイッチ.....24

1-5. 警告ラベルの記載事項の遵守と交換について .27

1. 安全にお使いいただくために

1-1. 安全を守るために

● 安全へのインフォメーション

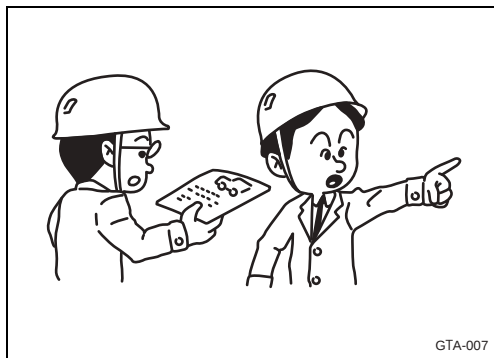
- ・ 事故は基本的な安全規則を守らない操作、点検、整備が原因で発生します。本装置の操作、点検、整備の前に、必ず本書をよく読み、理解し、正しい取扱いをしてください。十分な理解ができないまま、運転、操作、点検、整備を絶対に行わないでください。
- ・ 作業者は本書に基づいた指導、教育を受けてください。
- ・ 故障の予防、早期発見・処置および本装置を安全かつ効率的に長期間で使いいただくために保守点検は必ず実施してください。
- ・ 積荷は、必ず最大昇降質量以下にしてください。⇒詳細はP.30「2-1. 昇降質量表」へ

● 安全教育の励行



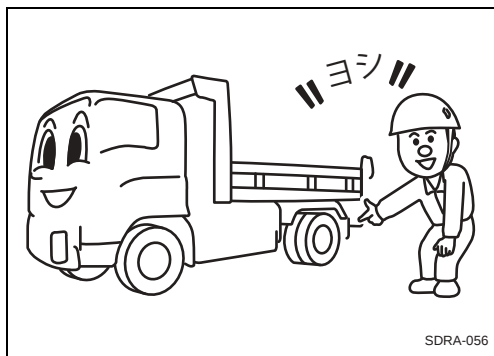
「安全第一」がすべての作業の基本です。
徹底した安全意識を持ってください。

● 作業計画の励行



作業内容と手順をよく打ち合わせてください。特に周囲の状況をよく調べ、安全な作業計画をたててください。

● 日常点検の実施

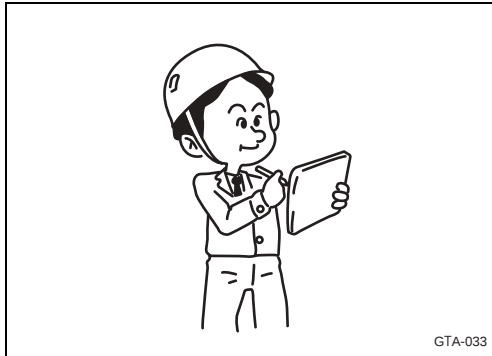


その日の作業を開始する前に、定期点検整備チェックリストに基づき、日常点検を必ず実施してください。

⇒詳細はP.61「6-3. 定期点検整備」へ

1. 安全にお使いいただくために

● 定期点検の実施



故障の早期発見と対処および性能維持のために定期点検を実施してください。

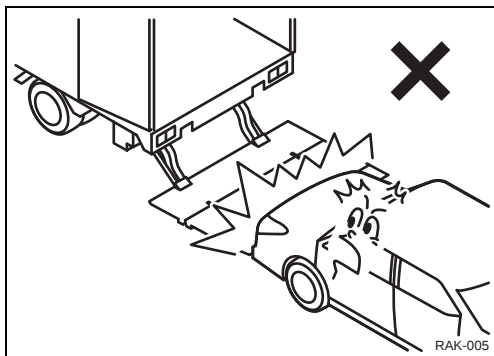


運転席外での作業は、作業服および保護具を着用してください。なお、着衣が巻き込まれたり装置に引っかからないよう十分に注意してください。

1. 安全にお使いいただくために

1-2. 走行時の注意事項

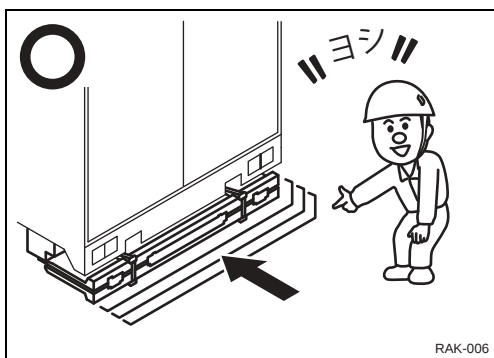
● 安全に走行するために



プラットフォームを開いた状態で走行しないでください。

警告

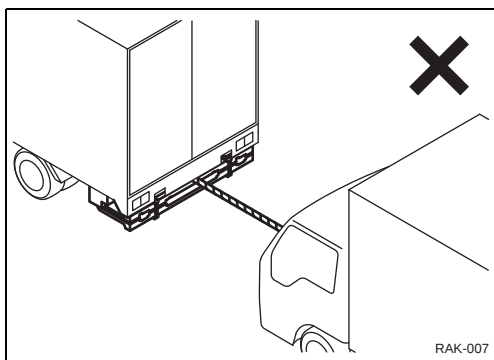
追突や積荷が落下する恐れがあります。



プラットフォームを確実に格納してください。

警告

走行中にプラットフォームが飛び出し重大な事故につながる恐れがあります。



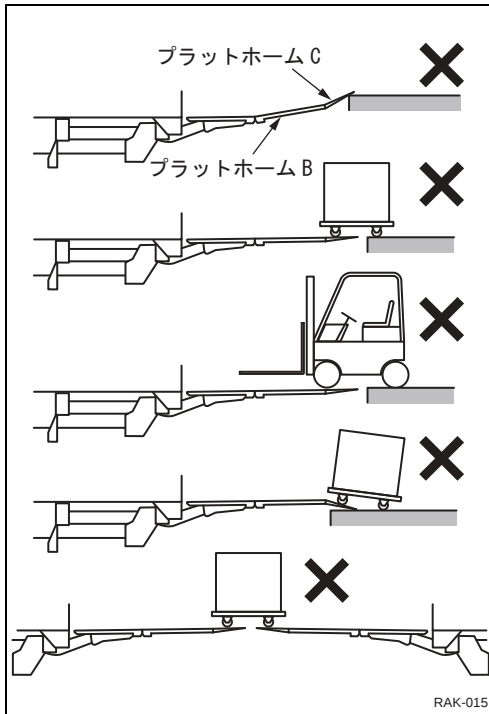
車両等をけん引しないでください。

注意

装置の損傷や故障の原因になります。

1-3. 作業時の注意事項

● 安全に作業するために

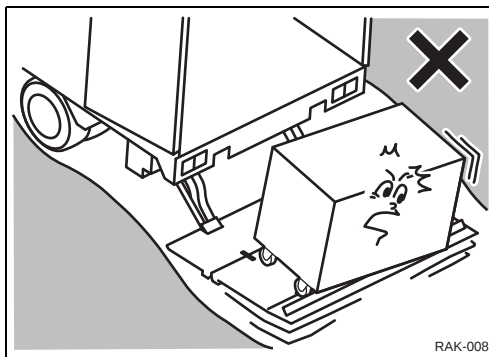


プラットホームを次のように使用しないでください。

- ・ 渡り板としての使用（除く床面手動チルト機構付き）
- ・ プラットホーム先端をかけないで荷物の積載
- ・ フォークリフトの乗り上げ
- ・ 渡り板かけ
- ・ プラットホームからプラットホームへの荷移し

⚠ 警告

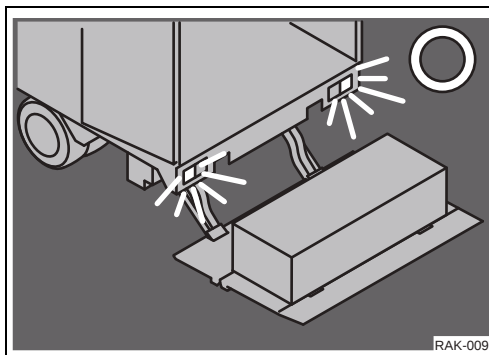
積荷の落下や装置が故障する恐れがあります。



作業は、平坦な場所で駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

⚠ 警告

傾斜地、不整地、障害物のある場所で作業するとプラットホームが傾き積荷が落下する恐れがあります。

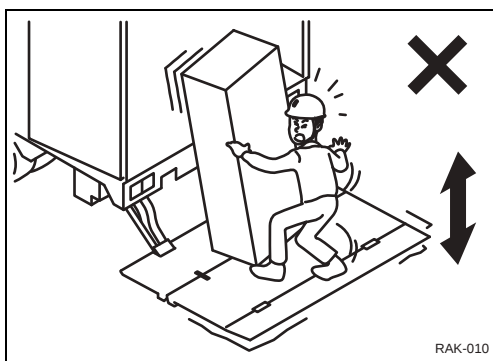


夜間等、周囲が暗い場所ではハザードランプ等を点滅させて積み降ろしを行ってください。

⚠ 警告

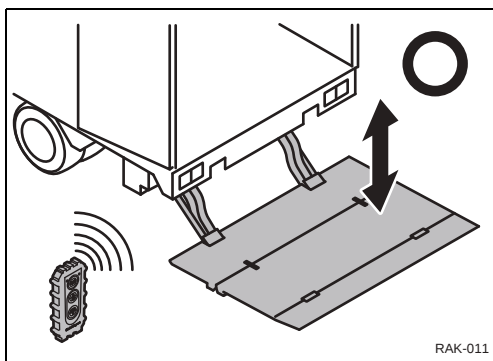
暗い場所での作業は、追突の恐れがあります。

1. 安全にお使いいただくために



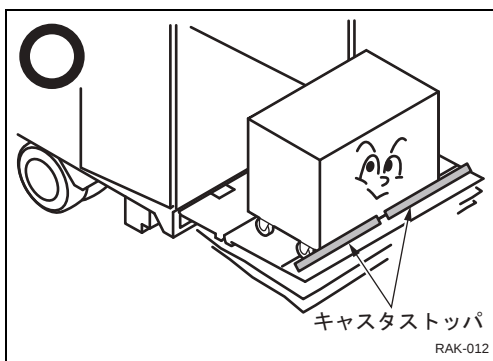
警告

プラットフォームに乗って昇降操作を行わないでください。



警告

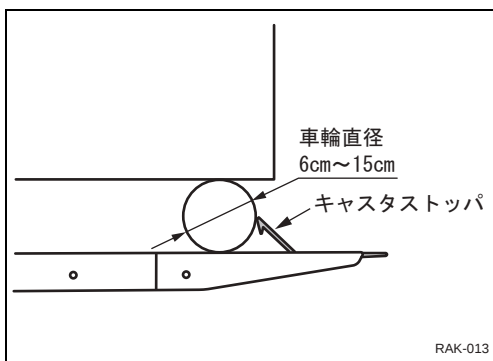
動作が確認できない位置で操作を行うと思わぬ事故につながる恐れがあります。



台車など車輪の付いている物や、転がりやすいものを積む場合は、必ずキャスタストッパを使用してください。

警告

積荷によりプラットフォームの後端が下がると傾斜により積荷が落下する恐れがあります。

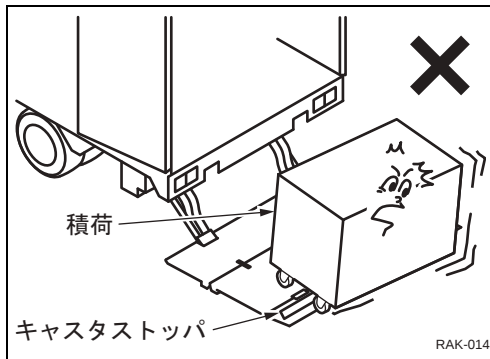


キャスタストッパは、車輪直径6cm～15cmに対応したストッパです。

警告

上記以外の車輪直径については、キャスタストッパを乗り越えて荷物が落下する恐れがあります。

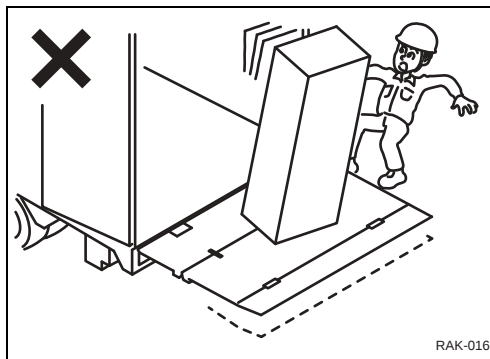
1. 安全にお使いいただくために



キャストストップより後ろに積荷をしないでください。

⚠ 警告

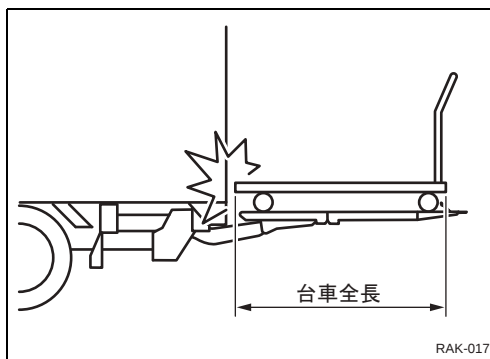
積荷によりプラットホームの后端が下がると傾斜により積荷が落下する恐れがあります。



荷台から重いものをプラットホームに載せるときは注意してください。

⚠ 警告

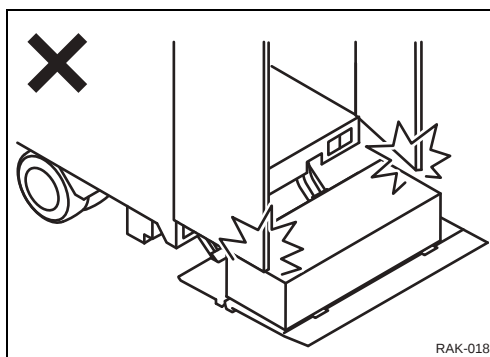
プラットホームが大きく傾き積荷が落下する恐れがあります。



架装型式により、適用する台車全長未満の台車を使用してください。⇒詳細はP.30「2-2. 適用可能台車全長」へ

⚠ 警告

台車が荷台に接触し転倒する恐れがあります。

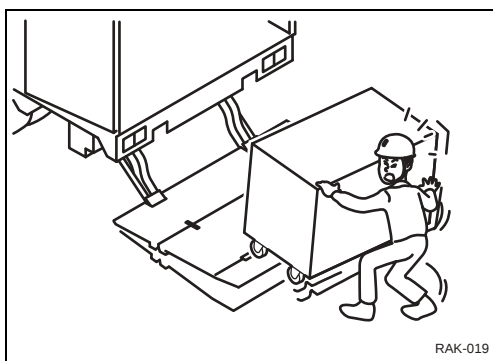


観音扉の場合は、原則として扉を全開にしストップで固定してから昇降操作を行ってください。90°～120°のストップを使用する場合は、確実にストップで扉を固縛してください。

⚠ 警告

扉が全開になっていない場合、扉とプラットホームに積荷がはさまり重大な事故につながる恐れがあります。

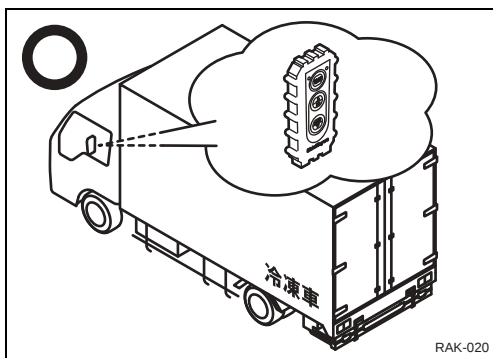
1. 安全にお使いいただくために



プラットホームが接地して停止した後も「下」ボタンを2～3秒間押し続けてください。

警告

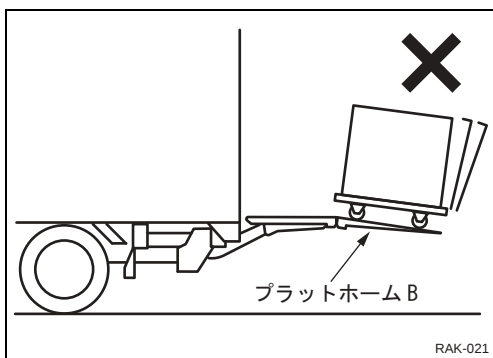
プラットホームが完全に接地して傾斜していないと荷物を降ろしたときにプラットホームが跳ね上がり荷物が転倒する恐れがあります。



冷凍車の場合、使用時以外はラジコンスイッチまたは庫内リモコンスイッチ★をキャブ内に保管してください。

警告

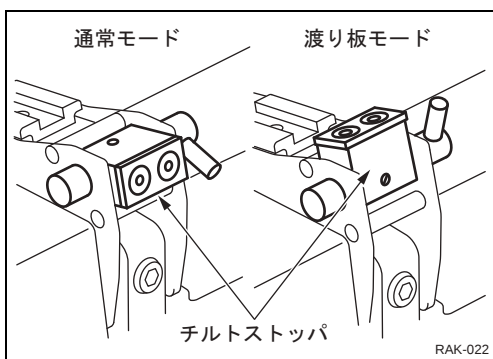
低温度内の荷箱内に放置すると作動不良を起こす恐れがあります。



床面手動チルト機構★が装着されている場合、チルトストッパを渡り板モードの状態にして昇降操作を行わないでください。

警告

プラットホームBが傾斜しているため積荷が落下する恐れがあります。

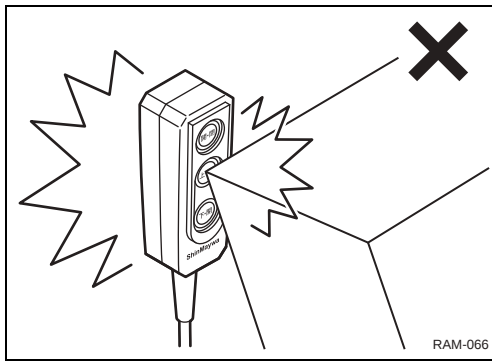


床面手動チルト機構★が装着されている場合、渡り板モードのときは、チルトストッパを両方ともに渡り板モードにしてください。

警告

- チルトストッパのモード切替えは、左右2か所とも確実に行ってください。中途の状態にあるとチルトストッパが突然動き、プラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。
- 片方だけ通常モードで、もう一方を渡り板モードにする使い方をするとプラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。

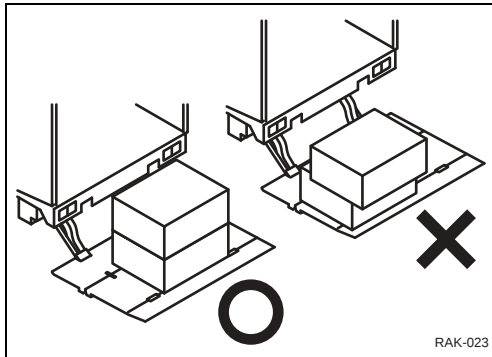
1. 安全にお使いいただくために



荷室内にあるリモコンスイッチを使用しない場合は、荷物や誤操作によって、意図せずにスイッチが押されない場所に置いてください。

⚠ 警告

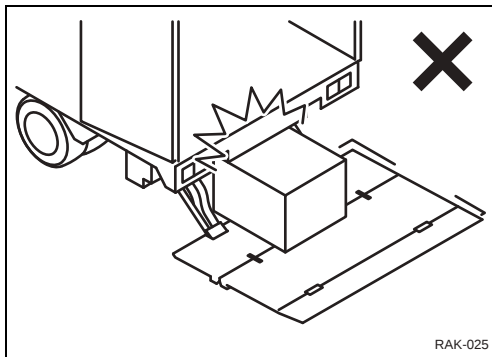
装置が不意に作動する恐れがあります。



積荷は必ず最大昇降質量以下で、プラットフォームの中央付近に荷崩れしないように載せてください。⇒詳細はP.30「2-1. 昇降質量表」へ

⚠ 注意

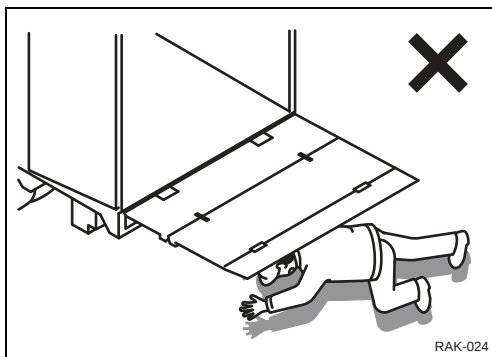
- 最大昇降質量以上の積荷を昇降させると各装置部の損傷や故障の原因になります。
- 積荷をプラットフォームの端や先端に載せるとプラットフォームが傾き、装置の変形や故障の原因になります。



積荷はプラットフォームからはみ出さないように載せてください。

⚠ 注意

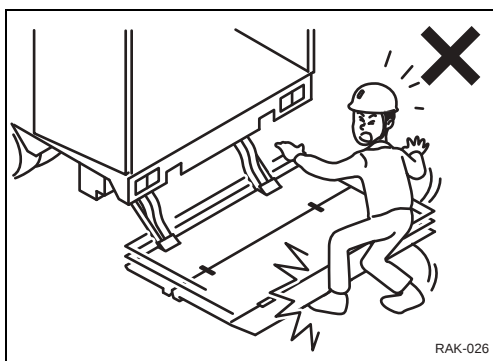
積荷がプラットフォームからはみ出している場合、荷台とプラットフォームに積荷がはさまり重大な事故につながる恐れがあります。



⚠ 注意

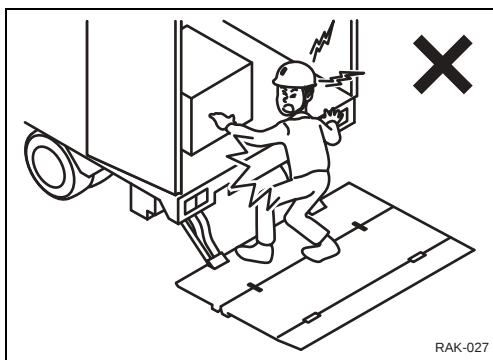
プラットフォームを操作するときは、作動範囲内に人や障害物がないことを確認してから操作してください。また、プラットフォームの下には絶対に入らないでください。

1. 安全にお使いいただくために



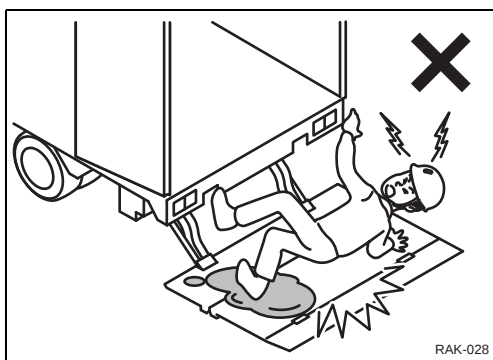
⚠ 注意

プラットフォームを操作するときは、作動部に接触しない位置で操作してください。



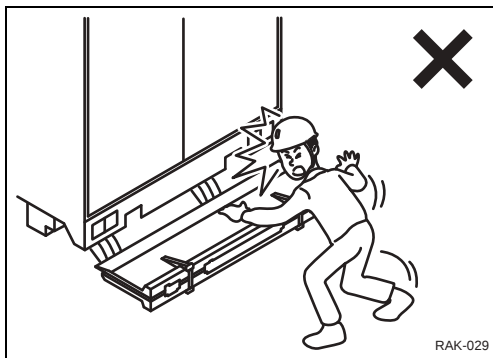
⚠ 注意

荷台との段差で転倒や転落の恐れがあります。



⚠ 注意

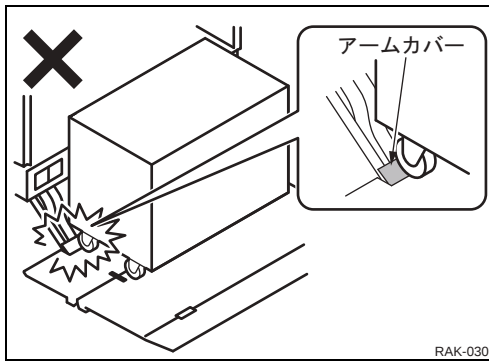
降雨時や降雪時など天候によりプラットフォーム上が滑りやすくなるので注意してください。



⚠ 注意

プラットフォームを開閉するときは、プラットフォームに手や足をはさまないように注意してください。

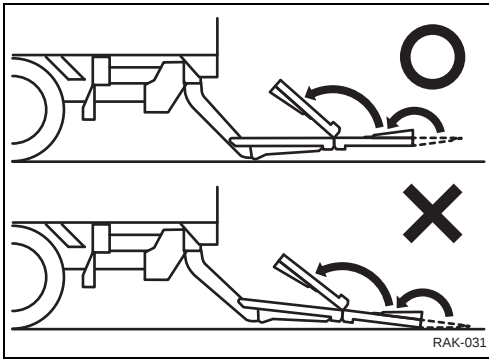
1. 安全にお使いいただくために



プラットフォームのアームカバー上に積荷をした状態で昇降操作は行わないでください。

⚠ 注意

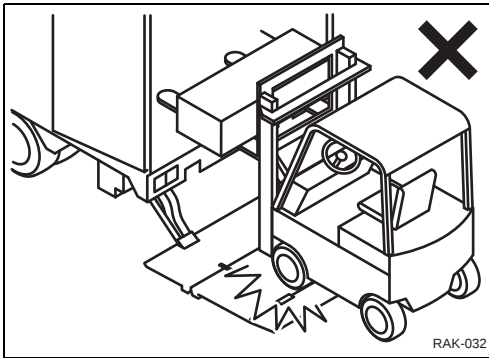
アームカバーが作動し荷崩れを起こす恐れがあります。



プラットフォームは接地し、かつ水平状態で格納してください。

⚠ 注意

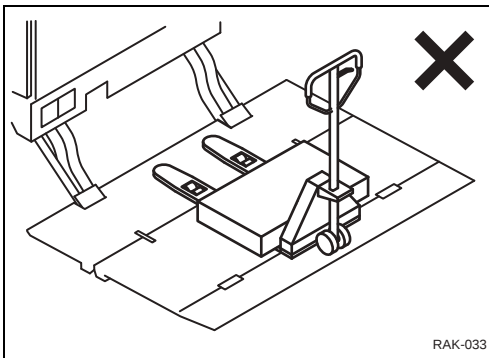
プラットフォームが傾斜した状態で格納すると装置を損傷させる恐れがあります。



プラットフォームにフォークリフトを乗り上げないでください。

⚠ 注意

プラットフォームが損傷する恐れがあります。

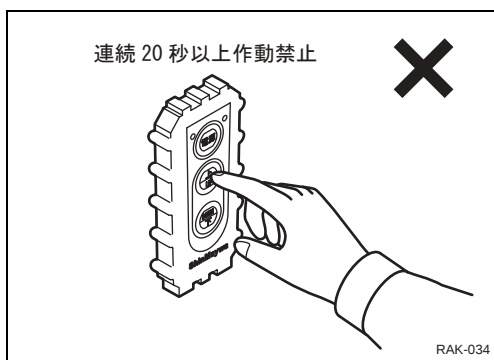


ハンドリフターなどの荷重が集中する台車を使用しないでください。

⚠ 注意

荷重が集中するとプラットフォームが損傷する恐れがあります。

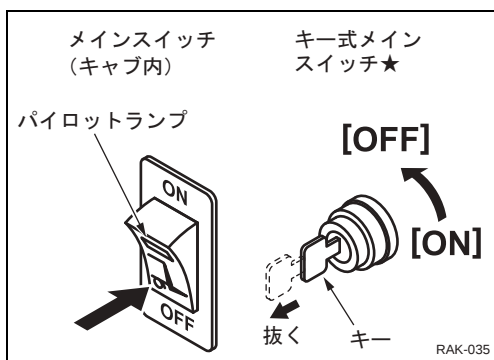
1. 安全にお使いいただくために



ボタンを押し続けてパワーユニットの電動モーターを20秒間以上作動させないでください。

▲ 注意

電動モーターが焼きつき、作動不良の原因になります。



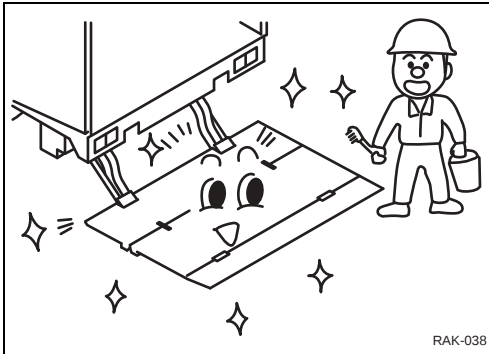
作業終了後、または車両から離れる場合は、メインスイッチを「OFF」にしてください。なお、キー式メインスイッチ★の場合は、キーを抜いてください。

▲ 注意

装置が不意に作動することを防止します。

1-4. 日常の注意事項

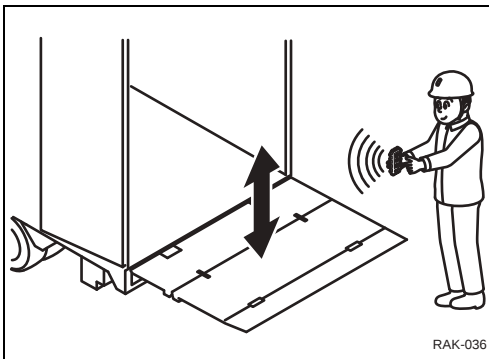
● 日常のお手入れについて



毎日、安全に気持ちよく使うために点検および給油脂などのお手入れをしてください。

⇒詳細はP.51「5. 日常点検とお手入れ」へ
なお、装置の調子が悪いときは、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。

日々のお手入れにより装置の寿命が長くなります。

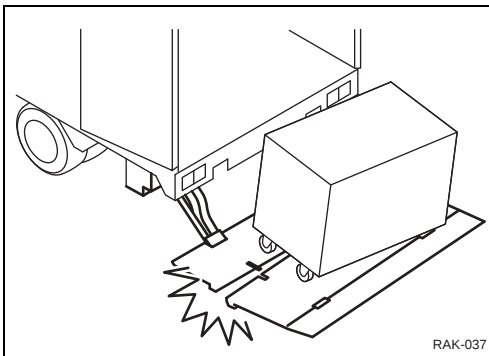


装置を長期間使用しない場合は、1週間に1度は昇降動作を行ってください。

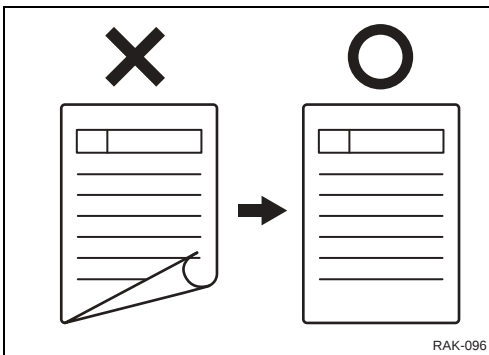


注意

リフトシリンダの錆や構造物の固着を抑制します。



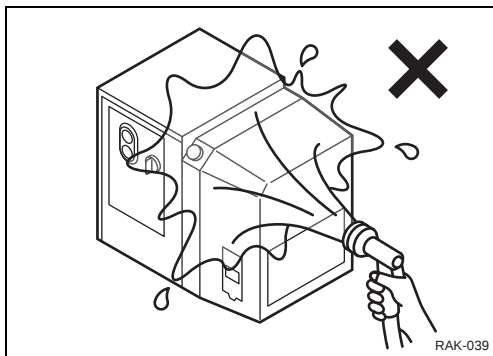
装置の構造物が腐食している場合は、部品交換が必要になります。腐食の恐れがある場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に点検をご依頼ください。



警告ラベルの文字やイラストがうすくなったり、はがれたり、汚損した場合や、再塗装などで塗料が付着した場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせのうえ、新しい警告ラベルに交換してください。

1. 安全にお使いいただくために

● パワーユニットについて



パワーユニットを高圧洗浄しないでください。

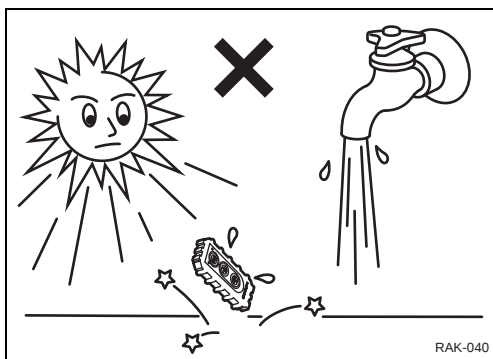
▲ 注意

電装品に水が入ると故障の原因になります。

● ラジコンスイッチ、リモコンスイッチ

▲ 注意

- ・ ラジコンシステムの電波到達範囲内での同時操作可能台数は最大で10台です。それ以上の台数では同時に操作できません。他のテールゲートリフタの操作が終了してから操作してください。
- ・ ラジコンシステムは、ノイズに対して比較的強い電波方式を採用していますが、電波を使用している関係上、外部ノイズなどによる電波障害で電波が届きにくくなる場合があります。
- ・ ラジコンシステムでは電波障害が発生した場合、プラットフォームの作動を停止します。



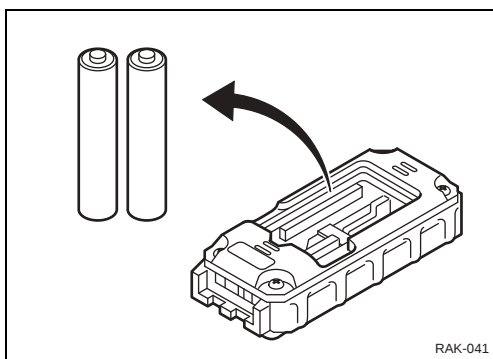
ラジコンスイッチを投げたり、落としたりしないでください。

▲ 注意

ラジコンスイッチの損傷や故障の原因になります。

ラジコンスイッチを直接水洗いしないでください。

ラジコンスイッチは、直射日光、雨水および振動に影響されない場所に保管してください。

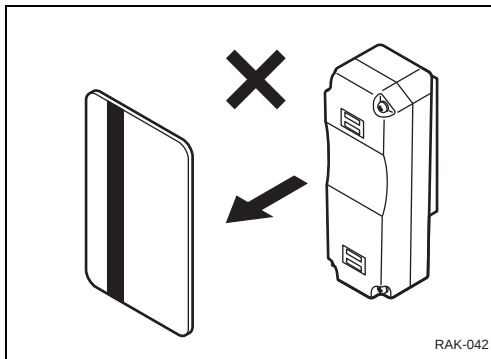


ラジコンスイッチを長期間使用しないときは、電池を外して保管してください。

▲ 注意

電池の液漏れを防止します。

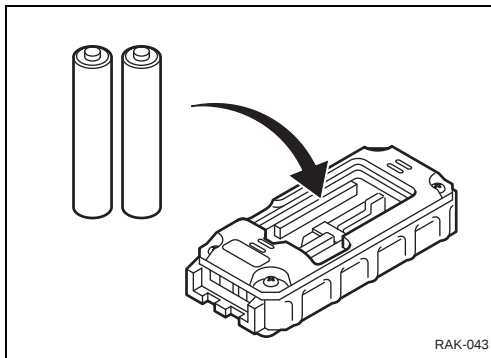
1. 安全にお使いいただくために



ラジコンスイッチ、リモコンスイッチに磁気カードを近づけないでください。

⚠ 注意

ラジコンスイッチ、リモコンスイッチには磁石が内蔵されているため磁気カードを近づけると、磁気カードのデータが破損する恐れがあります。

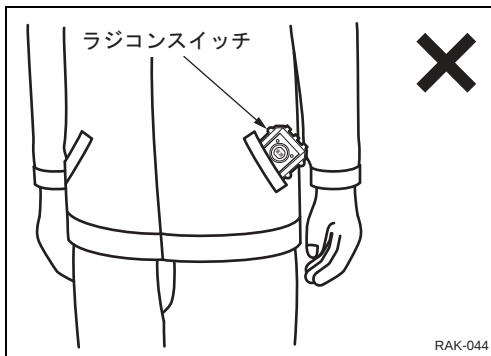


ラジコンスイッチには、単4形アルカリ乾電池（2本）を使用してください。

推奨電池：東芝製 アルカリ1（LR03AG）

⚠ 注意

- 電池交換は、2本同時に行い同じ電池を使用してください。
- パナソニック製乾電池エボルタ単4形（LR03EJ）は、接触不良を起こす恐れがあるので使用しないでください。
- 充電式乾電池は電圧不足になる恐れがあるので使用しないでください。

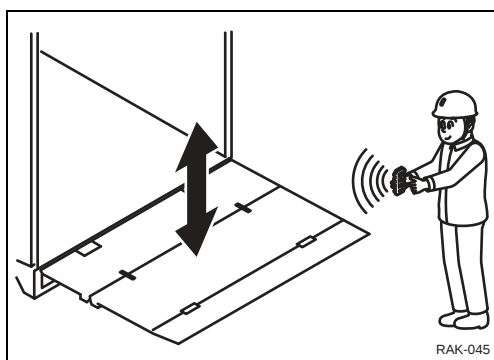


ラジコンスイッチは、ポケットに入れて持ち歩かないでください。

⚠ 注意

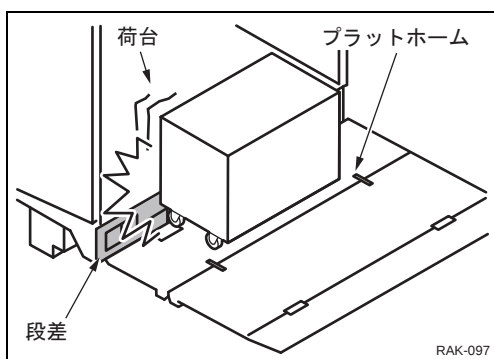
不意にボタンが押され、意図せずに装置が動きだす恐れがあります。

1. 安全にお使いいただくために

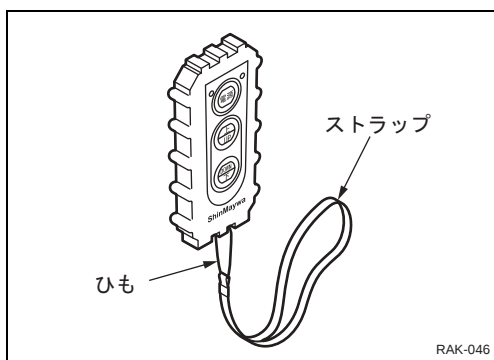


作業中の作動停止の影響を少なくするため下記に注意してください。

- ・ ラジコンスイッチの操作は、必ずプラットフォームの動作が確認できる位置で行ってください。
- ・ 電波が途切れた場合、1度ボタンから手を離し、再度ボタンを押すと回復する場合があります。
- ・ ラジコンスイッチとパワーユニット内にある受信機の上に障害物があると電波到達距離が短くなります。ラジコンスイッチは、できるだけパワーユニットに向けて操作してください。



電波障害の発生などにより作動停止し、荷台とプラットフォームに段差が生じているときは、プラットフォームの位置や姿勢に注意して積荷を取扱ってください。



ラジコンスイッチにあらかじめ取付けられているストラップ以外は使用しないでください。

▲ 注意

指定以外のストラップを使用すると電波障害が発生する恐れがあります。

1-5. 警告ラベルの記載事項の遵守と交換について

警告ラベルは、本装置を扱うすべての人に対し安全を確保していただくため、注意をうながすものです。本装置をご使用になる前には、本書の記載事項と併せて、警告ラベルの記載事項を必ず遵守してください。また、警告ラベルの文字やイラストがうすくなったり、はがれたり、汚損した場合や、再塗装などで塗料が付着した場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせのうえ、新しい警告ラベルに貼りかえてください。

参考

警告ラベルの貼り付け位置は、イラストの位置を標準としています。お車により異なる場合がありますので、必ずお使いのお車で確認してください。

注意 昇降動作 (保守点検)

長期間使用しない場合は
1週間に1度は昇降のこと

かくのうゲートを長期間使用しない場合は、かくのうゲートの保守のため、1週間に1度は昇降動作を行って下さい。

警告 ラジコン操作

テールゲートが見えない位置での操作禁止

テールゲートが見えない位置で操作を行うと思わぬ事故につながりますので、絶対に行わないでください。

また、誤動作防止のためテールゲートの使用時以外はメインスイッチをOFFにしてください。

キーレスタイプ
又は
キャブ内メインスイッチタイプ

注意 ラジコンスイッチの警報

警報ランプ (赤色) が高速で『点滅』している場合 [2秒間に5回点滅]
ラジコンスイッチの電池の電圧が低下しています。電池を交換してください。

警報ランプ (赤色) と電報ランプ (緑色) が同時に高速で『点滅』している場合 [1秒間に1回点滅]
ラジコンスイッチの本体の異常です。指定サービス工場で点検をお願いします。

電報ランプ 警報ランプ
ラジコンスイッチ

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

警告 かくのうゲート作業

全長1m以上の台車の使用禁止

1m以下

プラットフォーム下特許に台車がボディ表面に引っかかり、転落する恐れがありますので、全長1m以上の台車は使用しないでください。

警告 プラットホーム

1. プラットホームの格納
プラットフォームを開いた状態で、走行や放置は危険です。操作時は必ずプラットフォームを必ず格納してください。

2. キャスターストップについて
積荷の転落防止は確実に。プラットフォームは開閉により傾くことがあります。キャスターストップは、車輪直径5～15cm用です。それ以上のものについては、キャスターストップを乗り越えて荷物が落下する危険があります。

キャスターストップ
車輪直径 5～15cm
車輪径 35cm以上

注意 牽引の禁止

ロープ等による牽引
車両等の牽引を行うと、リフト装置の配管等を損傷し作動不良の原因となりますので、絶対に行わないでください。

注意 最大昇降質量 (kg)

かくのうゲート (1000kg型)

850mm
650mm
450mm

1000kg 700kg 400kg

(前後方向)

800mm 800mm 800mm

250kg 500kg 1000kg 500kg 250kg

(幅方向)

注意 かくのうゲート作業

1. プラットホーム操作時
プラットフォーム操作時には、周囲の人に注意。

2. プラットホーム使用時
作業時に手や足を挟まれないよう注意。

インストルメントパネルの空きスペースに貼り付け

注意 メインスイッチ

かくのうゲートのメインスイッチをONになるとブザーが鳴ります。走行時、作業終了時にはメインスイッチをOFFにしてください。

イラストは、PRAK10-6495を示します。

RAK-047

1. 安全にお使いいただくために

はさまれ注意

注意 レール
ガラスUP

レールのガラスがはれるとスライド時、格納れが発生します。レールの上面、外側面、下面は定期的にガラスUPをして下さい。又、車両の高圧洗浄後もガラスUPをして下さい。

プラットホームC裏面

注意 格納操作

キャッチが損傷し、プラットホームC各ロックできなくなってしまう。プラットホームCが傾かないように手をつきみ格納操作を行つと、手や指をなさむ恐れがありますので絶対に行わないでください。

・緊急時の処置手順
①プラットホームCを折りたたみ、紐などで縛り、傾かないようにプラットホームCに固定します。
②緊急操作スイッチで格納操作します。（緊急操作スイッチの操作は取扱説明書を参照してください。）

紐などで縛る

プラットホームB裏面

注意 プラットホーム格納位置

プラットホームを格納する場合は、プラットホームが接地し、かつ『水平』な状態で折りたたんでください。その他の作業位置で格納すると、装置を損傷させる恐れがあります。

プラットホーム格納操作上の注意

かくのうゲートはリヤパンパの機能を備えております。走行する場合は、プラットホームが確実に格納していることを確認してください。又、走行前にはプラットホームストッパーが右側の位置にあることを確認して下さい。

※かくのうゲートの格納方法は取扱説明書を参照願います。

スライドルールとプラットホームストッパーがつかかっていること。

イラストは、PRAK10-6495を示します。

RAK-095

2.主要諸元

2-1. 昇降質量表30

2-2. 適用可能台車全長30

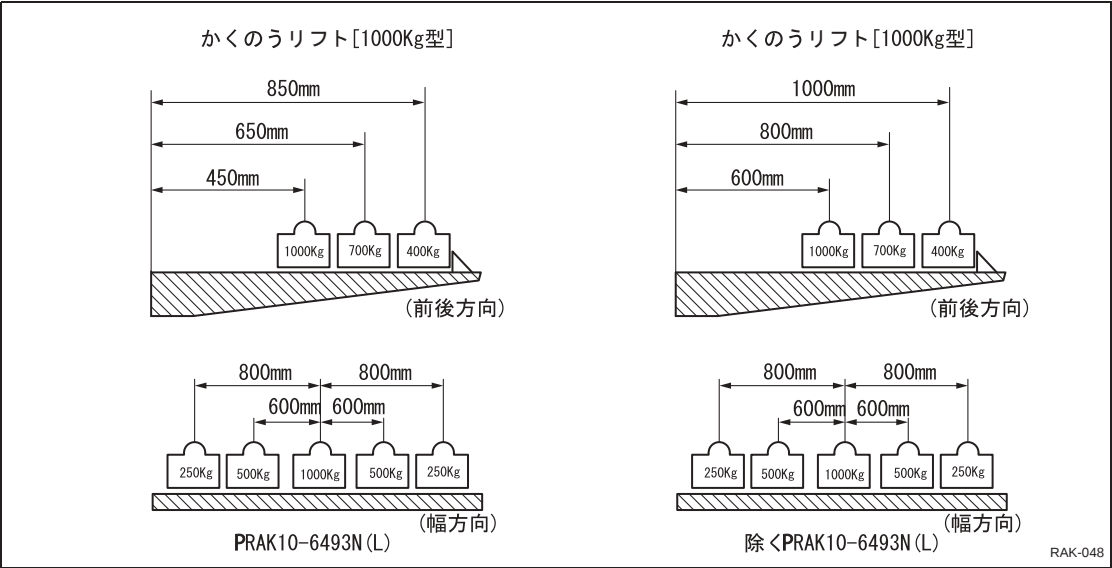
2-3. プラットホーム渡り板使用時の段差範囲31

2

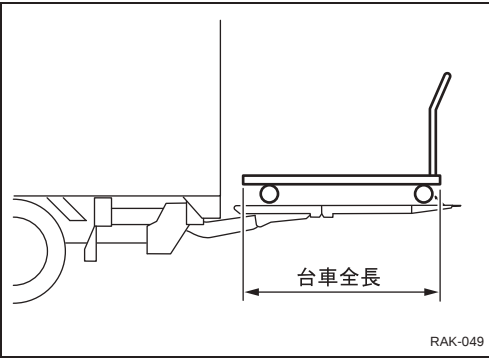
2. 主要諸元

2-1. 昇降質量表

最大昇降質量は、積荷の積載位置により異なります。



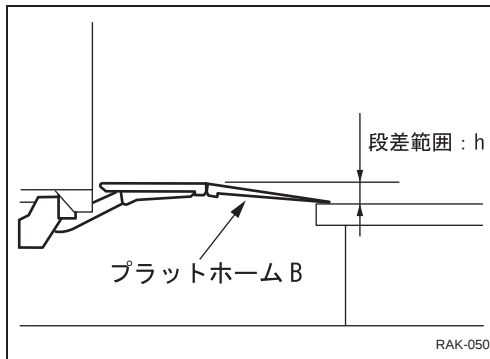
2-2. 適用可能台車全長



架装型式により、適用する台車全長未満の台車を使用してください。

架装型式	適応する台車全長
PRAK10-6493N	80cm
PRAK10-6493NL	
PRAK10-6494N	1m
PRAK10-6494	
PRAK10-6494NL	
PRAK10-6494L	
PRAK10-6494ND	
PRAK10-6494D	1.3m
PRAK10-6494NLL	
PRAK10-6494LL	
PRAK10-6495	
PRAK10-6495D	
PRAK10-6496	
PRAK10-6496D	
PRAK10-6496DL	

2-3. プラットホーム渡り板使用時の段差範囲



床面手動チルト機構★付きの場合、プラットホームBを渡り板として使用するとき、段差範囲を厳守してください。

架装型式	段差範囲：h（mm）
PRAK10-6494D	0～90
PRAK10-6495D	0～130
PRAK10-6496D	0～130

M E M O

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is defined by a thin black border and occupies the majority of the page area below the title.

3.各部の操作

3-1. メインスイッチ34

●メインスイッチ（キャブ内） 34

●キー式メインスイッチ★ 34

3-2. ラジコンスイッチ34

3-3. リモコンスイッチ35

●庫外リモコン 35

●庫内リモコン★ 35

3-4. 緊急操作スイッチ36

3-5. キャスタストッパロック36

3-6. 床面手動チルト機構★37

3-7. 警告ランプ★38

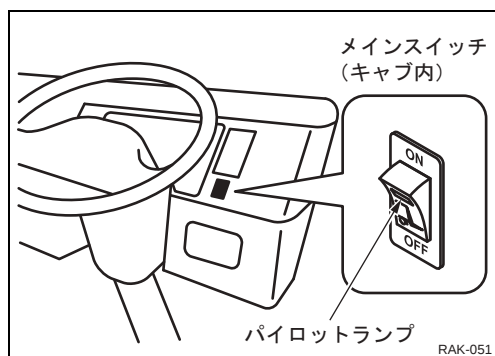
●装置が作動せず警告ランプ★が点灯する場合 38

●装置は作動するが警告ランプ★が点灯する場合 38

3. 各部の操作

3-1. メインスイッチ

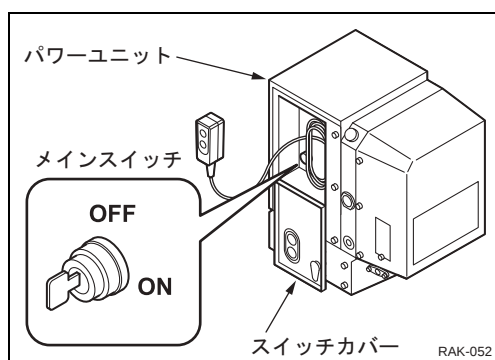
●メインスイッチ（キャブ内）



メインスイッチは、キャブ内のインストルメントパネルに取付けられています。

- (1) 「ON」：装置の電源が入りプラットホームを操作することができます。電源が入るとパイロットランプが点灯し、キャブ内でブザーが鳴ります。
- (2) 「OFF」：装置の電源が切断されます。プラットホームの操作ができなくなります。電源が切れるとパイロットランプが消灯し、ブザーが止まります。

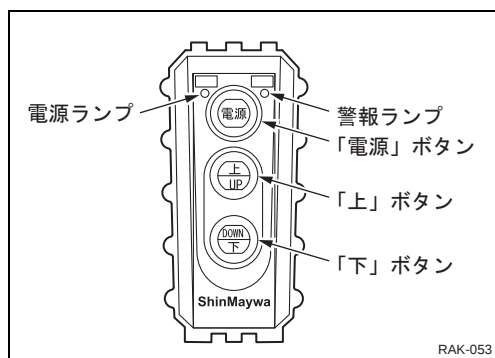
●キー式メインスイッチ★



キー式メインスイッチは、パワーユニットのスイッチカバー内にあります。キーを差し込んで回します。

- (1) 「ON」：装置の電源が入りプラットホームを操作することができます。電源が入るとキャブ内でブザーが鳴ります。
- (2) 「OFF」：装置の電源が切断されます。プラットホームの操作ができなくなります。電源が切れるとブザーが止まります。

3-2. ラジコンスイッチ



- (1) 「電源」：ボタンを押すと電源が入り電源ランプが点灯します。電源ランプ（緑色）が点灯中に「上」または「下」を押してプラットホームを操作することができます。

なお、電源は5秒間何も操作をしないと自動的に切れます。

- (2) 「上」ボタン：プラットホームの水平操作、上昇操作および格納操作ができます。
- (3) 「下」ボタン：プラットホームの傾斜操作、降下操作および引出し操作ができます。
- (4) 警報ランプ：

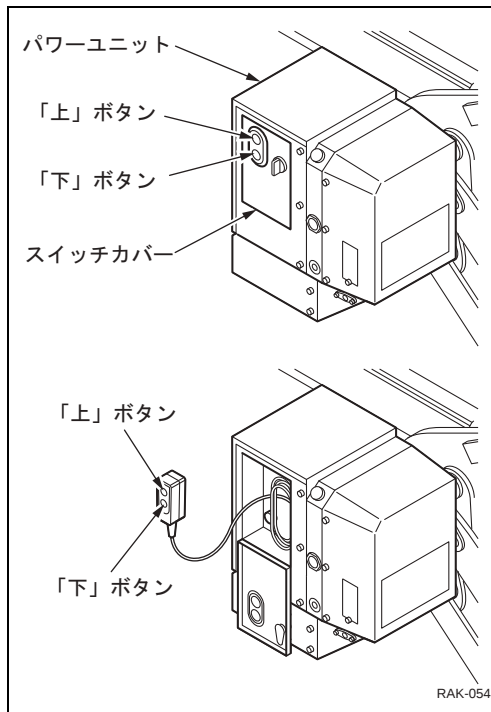
- 警報ランプ（赤色）が高速（2秒間に5回）で点滅する場合は、電池の電圧が低下しています。電池を交換してください。⇒詳細はP.55 「5-2. 点検」 「ラジコンスイッチの電池交換」へ

- ・ 警報ランプ (赤色) と電源ランプ (緑色) が同時に低速 (1秒間に1回) で点滅する場合は、ラジコンスイッチが故障している可能性があります。新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場で点検を受けてください。

- (5) 電源ランプ：電源が入ると緑色で点灯します。ID登録作業時は、赤色で点灯します。

3-3. リモコンスイッチ

● 庫外リモコン

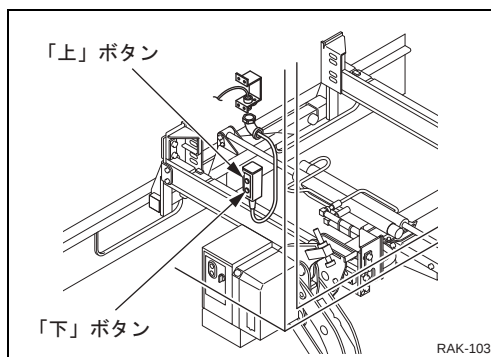


リモコンスイッチは、パワーユニットのスイッチカバー内にあります。

なお、リモコンスイッチはスイッチカバーを閉じた状態でも使用することができます。また、スイッチカバーを開けてリモコンスイッチを取出して遠隔操作をすることもできます。

- (1) 「上」ボタン：プラットホームの水平操作、上昇操作および格納操作ができます。
- (2) 「下」ボタン：プラットホームの傾斜操作、降下操作および引出し操作ができます。

● 庫内リモコン★

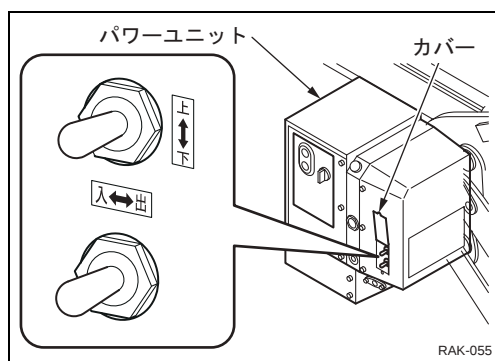


リモコンスイッチは、キャブ内または荷室内にあります。リモコンスイッチは取出して遠隔で操作をすることもできます。

- (1) 「上」ボタン：プラットホームの水平操作、上昇操作および格納操作ができます。
- (2) 「下」ボタン：プラットホームの傾斜操作、降下操作および引出し操作ができます。

3. 各部の操作

3-4. 緊急操作スイッチ



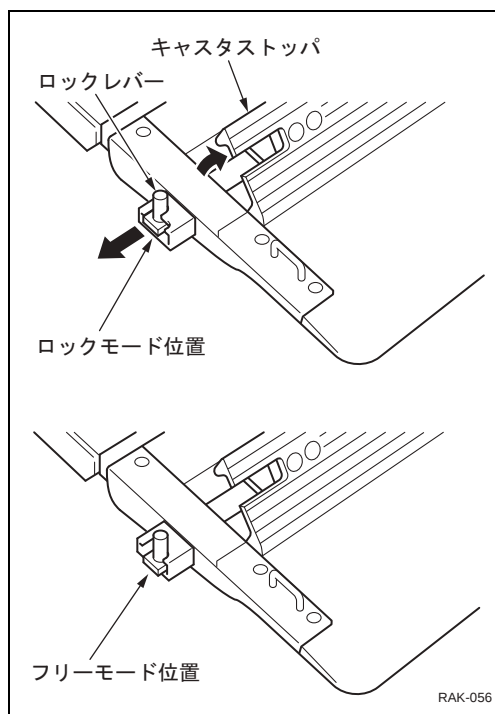
緊急操作スイッチは、パワーユニットのカバー内にあります。このスイッチは、故障で正常な動作をしない、格納できないなどの緊急時にプラットホームを操作するためのものです。

緊急時には、プラットホームを格納させて安全な場所に移動してください。また、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場にお問い合わせください。

- (1) 「出」：レバーを倒すとプラットホームが引出し動作を行います。
- (2) 「入」：レバーを倒すとプラットホームが格納動作を行います。
- (3) 「下」：レバーを倒すとプラットホームが降下動作を行います。
- (4) 「上」：レバーを倒すとプラットホームが上昇動作を行います。

プラットホームの緊急操作は「4-5. プラットホームの緊急操作」を参照してください。⇒詳細はP.46「4-5. プラットホームの緊急操作」へ

3-5. キャスタストッパロック



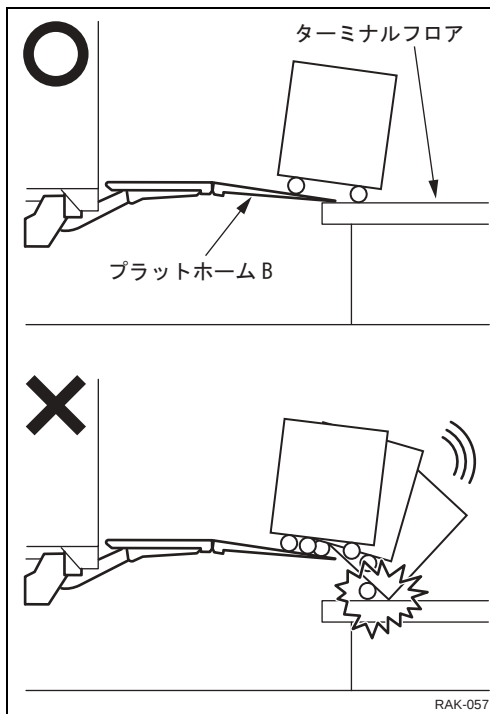
ロックレバーを操作してキャストストッパを利用状態または格納状態にします。

- ・ロックモード：
ロックレバーを車両外側に引き出すとキャストストッパが立ち上がります。この状態で立ち上がったキャストストッパを踏み込むとキャストストッパは格納されます。
- ・フリーモード：
ロックレバーを車両外側に引き出し、フリーモード位置にセットするとキャストストッパは常に立ち上がった状態となります。この状態で立ち上がったキャストストッパは、踏み込んでも足を離すと再度、立ち上がります。

▲ 注意

- ・キャストストッパに台車を当てるときは、キャストストッパが立ち上がっていることを目視で確認してから行ってください。
- ・キャストストッパに台車を当てるときは、ゆっくり当ててください。勢いよく当てると台車が転倒する恐れがあります。
- ・プラットホームを格納するときは、必ずキャストストッパを格納してください。

3-6. 床面手動チルト機構★



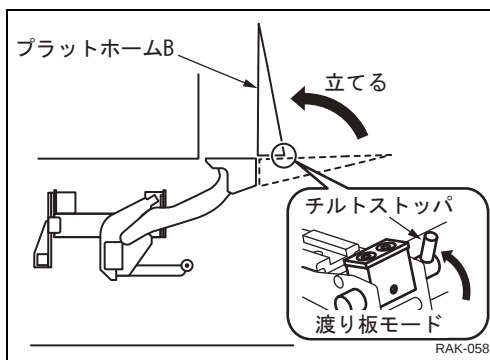
プラットフォームBを渡り板として使用することができます。なお、床面手動チルト機構★は、2枚折れプラットフォームのみにオプション設定されています。

⚠ 警告

プラットフォームBを渡り板として使用の場合は、プラットフォームBの先端をターミナルフロアに接地させて使用してください。プラットフォームBの先端が接地していない状態で使用すると、プラットフォームが不意に傾斜して、積荷が転倒する恐れがあります。

⚠ 注意

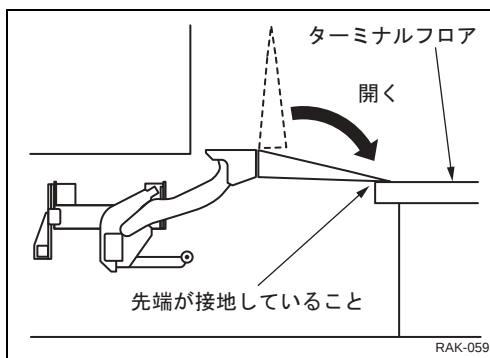
プラットフォームBを渡り板として使用の場合は、段差範囲を厳守してください。
⇒詳細はP.31 「2-3. プラットホーム渡り板使用時の段差範囲」へ



- (1) プラットホーム B を立てた状態でチルトストップを渡り板モードの位置にします。

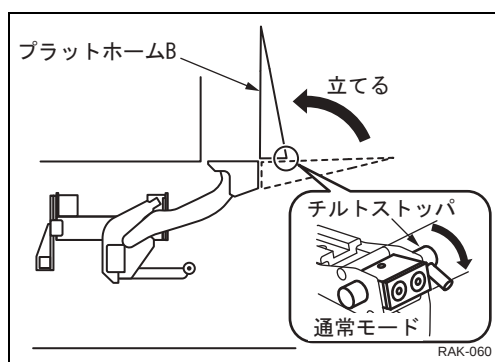
⚠ 警告

- チルトストップのモード切替えは、左右2か所とも確実に行ってください。中途の状態にあるとチルトストップが突然動き、プラットフォームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。
- 片方だけ通常モードで、もう一方を渡り板モードにする使い方をするとプラットフォームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。



- (2) プラットホームBをゆっくりと開き、先端をターミナルフロアに接地させます。

3. 各部の操作

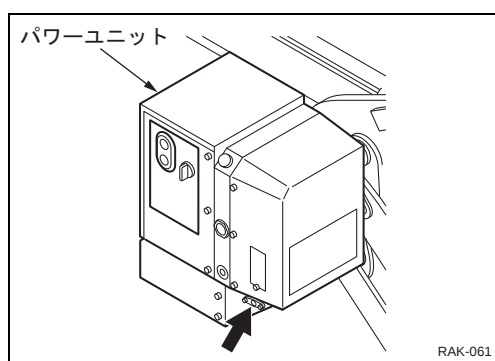


- (3) 作業終了後プラットホーム B を立ててチルトストッパを通常モードの位置にします。

▲ 警告

- ・チルトストッパのモード切替えは、左右2か所とも確実に行ってください。中途の状態にあるとチルトストッパが突然動き、プラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。
- ・片方だけ通常モードで、もう一方を渡り板モードにする使い方をするとプラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがあります。

3-7. 警告ランプ★



警告ランプ★は、パワーユニットの下部に取付けられています。

● 装置が作動せず警告ランプ★が点灯する場合

バッテリー電圧が低下しています。メインスイッチを「OFF」にし、エンジンを始動してください。

参考

荷役作業により電圧が低下すると保護回路が作動し、装置の操作ができなくなります。メインスイッチを「OFF」にし、エンジンを始動してバッテリーを十分に充電した後、メインスイッチを「ON」にして荷役作業を行ってください。

● 装置は作動するが警告ランプ★が点灯する場合

点検整備の時期を示しています。お近くの新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場で点検整備を受けてください。

なお、警告ランプ★が点灯しても通常の操作は可能ですが、早めに点検整備を受けてください。

参考

警告ランプ★が点灯していなくても、日常点検は必ず実施してください。6か月ごとにお近くの新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場で点検整備を受けてください。

4.操作方法

4-1. 作業準備40

4-2. プラットホームの引出し.....40

- メインスイッチ操作 40
- 引出し操作 41
- 接地時のプラットホーム傾斜操作..... 42
- キャストストッパの使用..... 42

4-3. プラットホームの昇降.....42

- プラットホームの水平操作 42
- プラットホームの上げ操作 43
- プラットホームの途中停止 43
- プラットホームの下げ操作 43

4-4. プラットホームの格納.....44

4-5. プラットホームの緊急操作.....46

- プラットホームの作動不具合現象..... 46
- 緊急操作方法..... 47

4. 操作方法

4-1. 作業準備

本装置は、バッテリーを電源としていますので、エンジンを始動させる必要はありません。しかし、作業頻度が多い場合や、バッテリーが放電ぎみの場合には、エンジンを始動させてから使用してください。また、バッテリー電圧を検知して、規定電圧より低下している場合は、バッテリー上がりを防止するため本装置の操作ができなくなる機能が装備されています。この場合もエンジンを始動させてから使用してください。

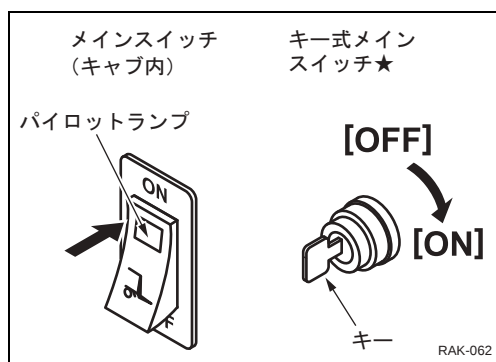
- (1) 傾斜のない平坦地に車両を駐車します。
- (2) 駐車ブレーキをかけます。
- (3) タイヤ歯止めをかけます。
- (4) エンジンを停止させます。

⚠ 警告

- ・ 傾斜地、不整地、障害物がある場所での作業は積荷が落下する恐れがあります。
- ・ 危険物の昇降時には必ずエンジンを停止してください。(可燃物への引火防止)
- ・ 操作時に作動不具合が発生した場合は、プラットホームの緊急操作を参照してください。⇒詳細はP.46「4-5. プラットホームの緊急操作」へ

4-2. プラットホームの引出し

● メインスイッチ操作



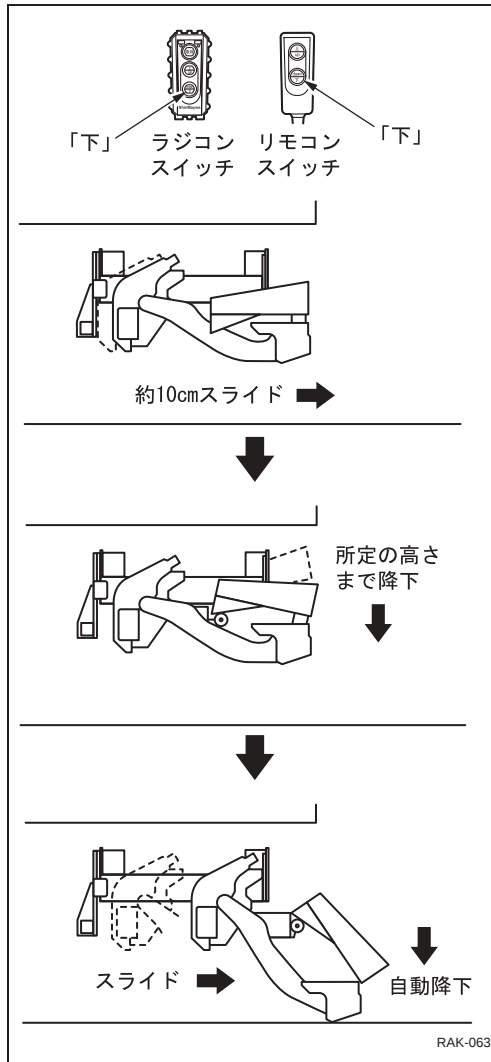
・ メインスイッチ (キャブ内)

- (1) メインスイッチを「ON」にします。
- (2) パイロットランプが点灯します。
- (3) キャブ内でブザーが鳴ります。(ピッ・ピッ・ピッ)

・ キー式メインスイッチ★

- (1) スイッチカバー内のメインスイッチを「ON」にします。
- (2) キャブ内でブザーが鳴ります。(ピッ・ピッ・ピッ)

● 引出し操作

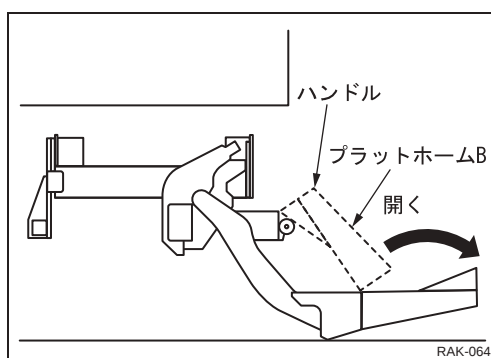


ラジコンスイッチまたはリモコンスイッチで操作します。

- (1) ラジコンスイッチで操作する場合は、ラジコンスイッチの電源ボタンを押して、電源ランプが点灯することを確認します。

なお、電源は5秒間何も操作をしないと自動的に切れます。

- (2) スwitchの「下」ボタンを押し続けます。
- プラットフォームが車両後方へ約 10cm スライドします。
 - スライドが完了すると所定の高さまで降下します。
 - 降下が完了すると車両後方の所定の位置までスライドします。
 - スライドが完了すると自動的に降下し、接地します。
- (3) 接地が完了したらボタンから手を離します。

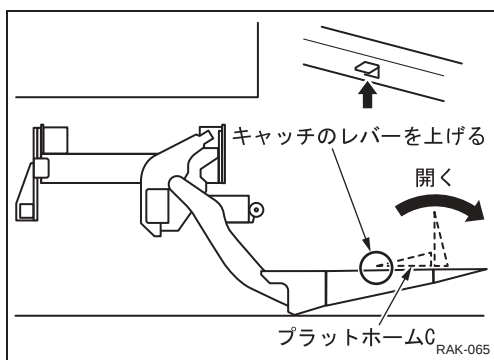


- (4) ハンドルを持ってプラットフォーム B を開きます。

参考

PRAK10-6494ND, 6494D, 6495D, 6496D にハンドルは装備されていません。

4. 操作方法



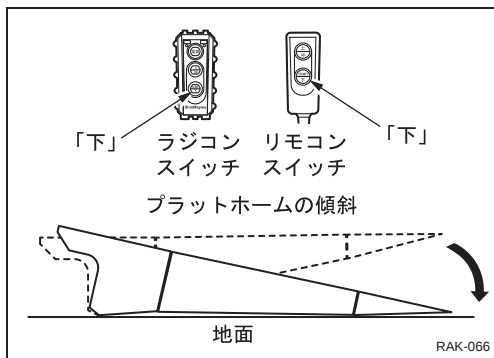
- (5) プラットホームBとプラットフォームCを固定しているキャッチのレバーを解除します。

参考

PRAK10-6494ND, 6494D, 6495D, 6496D, 6496DLにキャッチは装備されていません。

- (6) プラットホームCを開きます。

● 接地時のプラットフォーム傾斜操作



- (1) スイッチの「下」ボタンを押し続けます。
- a. プラットホームが傾斜し、底面全体が接地します。これにより荷物の積み込みが可能になります。

警告

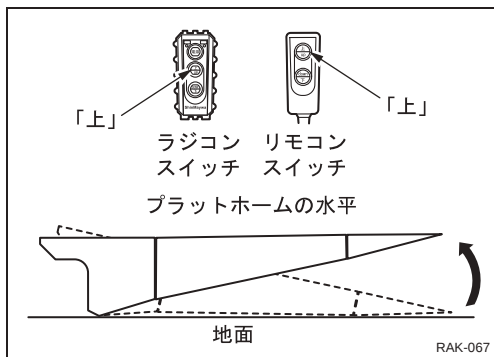
荷物を降ろしたときのプラットフォームの跳ね上がり防止のため、プラットフォームが接地して停止した後も「下」ボタンを2～3秒間押し続けてください。

● キャスタストoppaの使用

台車、車輪のついている荷物など、転がりやすい物を積み込むときは、必ずキャスタストoppaを使用してください。⇒詳細はP.36 「3-5. キャスタストoppaロック」へ

4-3. プラットホームの昇降

● プラットホームの水平操作

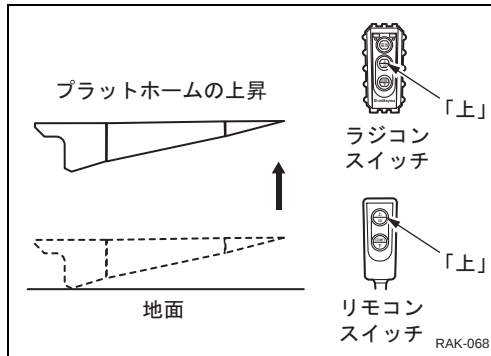


- (1) プラットホームが水平になるまでスイッチの「上」ボタンを押し続けます。
- (2) プラットホームが水平になったらボタンから手を離します。

参考

プラットフォームが水平になった後も「上」ボタンを押し続けるとプラットフォームは水平のまま上昇します。

● プラットホームの上げ操作



- (1) スイッチの「上」ボタンを押し続けるとプラットホームが上昇します。
- (2) プラットホームが最上昇して停止したらボタンから手を離します。

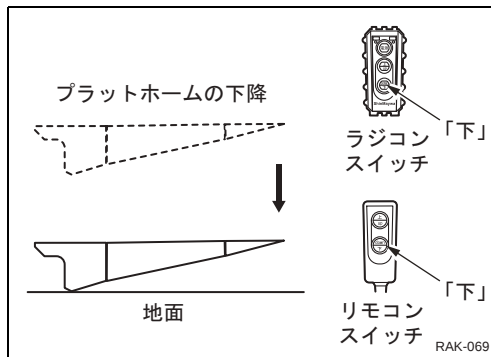
⚠ 注意

プラットホームが停止してからボタンを押し続けて電動モーターを20秒間以上作動させると、電動モーターが焼き付き、作動不良の原因となります。

● プラットホームの途中停止

スイッチのボタンから手を離すとプラットホームは任意の位置で停止します。

● プラットホームの下げ操作



- (1) スイッチの「下」ボタンを押し続けるとプラットホームが降下します。

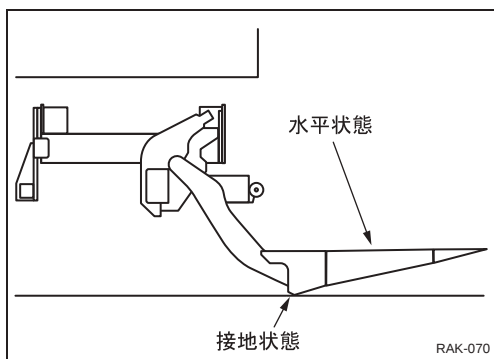
参考

プラットホームは、積荷の重量に関係なく、ほぼ一定の速度で降下します。

- (2) プラットホームが接地したらボタンから手を離します。

4. 操作方法

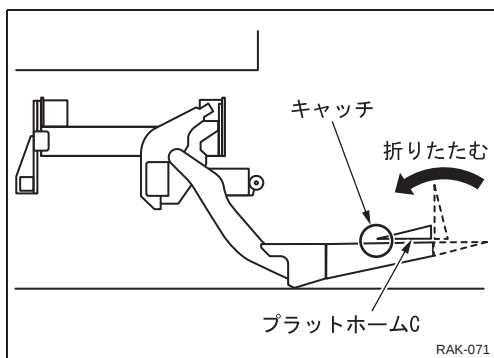
4-4. プラットホームの格納



- (1) プラットホームが接地し、水平状態であることを確認します。

⚠ 注意

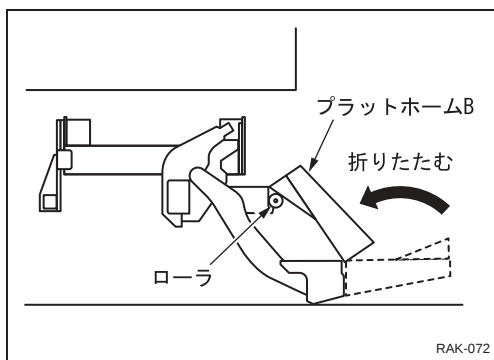
プラットホームが傾斜した状態で格納されると装置を損傷させる恐れがあります。



- (3) プラットホームCを折りたたみます。
- (4) プラットホーム C を押してキャッチで確実にロックします。

参考

PRAK10-6494ND, 6494D, 6495D, 6496D, 6496DLにキャッチは装備されていません。



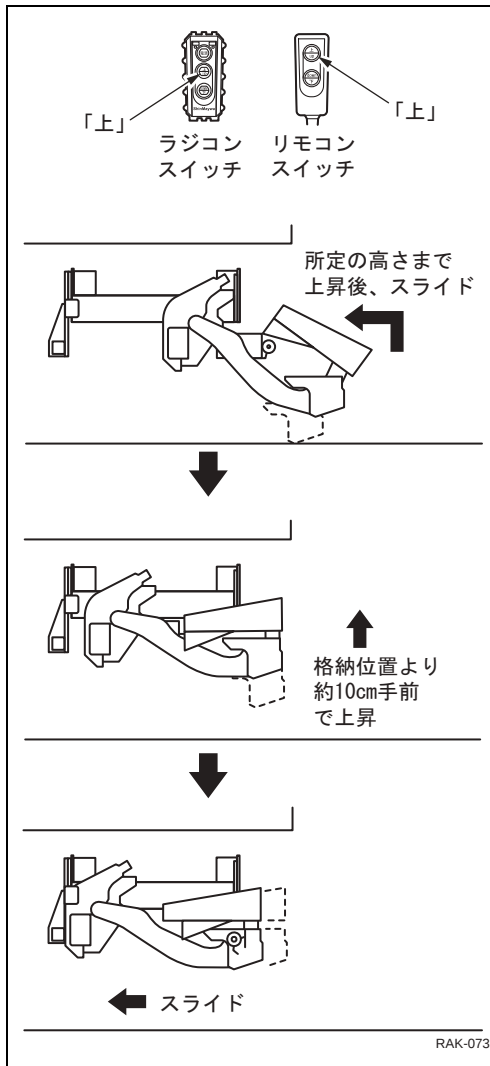
- (5) プラットホームBを折りたたみ、ボデーに当たらないことを確認して、ローラに確実に立てかけます。

参考

エアサスペンション装着車などで床面が高くなった状態では、プラットホームを地面から浮かせて折りたたんでください。

⚠ 注意

プラットホームが地面から10cm以上の位置で折りたたむと、スライド時に装置を損傷させる恐れがあります。



(6) スイッチの「上」ボタンを押し続けます。

⚠ 注意

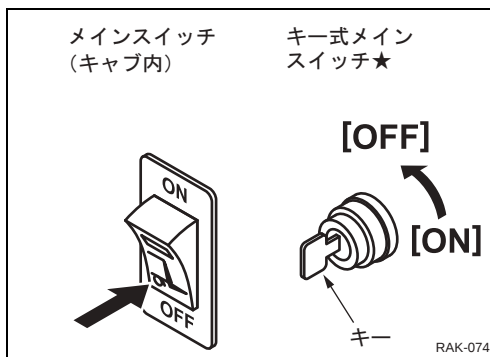
- ・ プラットホームが地面から10cm以上の位置で折りたたむと、スライドしない場合があります。この場合は、「下」ボタンを押してプラットホームを再度接地させてから操作してください。
- ・ プラットホームの上昇中に「上」ボタンから手を離すと、再度「上」ボタンを押しても装置が作動しない場合があります。この場合は、「下」ボタンを押してプラットホームを接地させてから再度「上」ボタンを押して作動させてください。

- a. プラットホームが上昇し所定の高さに達すると車両前方へスライドします。
- b. 正規格納位置の約 10cm 手前で再度上昇します。
- c. プラットホームがスライドレールに当たると車両前方へスライドします。

(7) ボタンから手を離すとプラットホームは自動的に格納されます。

⚠ 注意

自動格納を停止させる場合は、「上」または「下」のボタンを押してください。



(8) キャブ内またはスイッチカバー内のメインスイッチを「OFF」にします。

4. 操作方法

4-5. プラットホームの緊急操作

緊急操作は、故障で正常な動作をしない、格納できないなどの緊急時にプラットホームを操作するためのものです。

緊急時には、下記のプラットホームの作動不具合現象を参照してプラットホームを格納させ、安全な場所に移動してください。また、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場にお問い合わせください。

⚠ 警告

緊急操作での荷物の昇降は、絶対に行わないでください。荷物が転倒する恐れがあります。

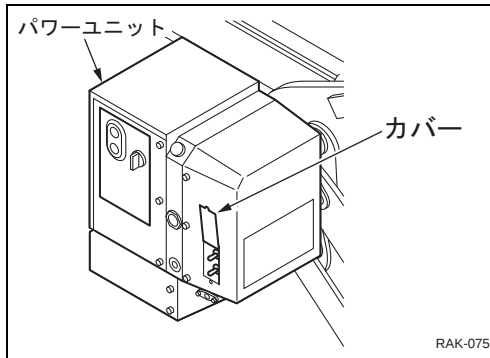
⚠ 注意

- ・ 緊急操作は通常の操作とは異なるため思わぬ事故の原因になる恐れがあります。緊急操作の場合は周囲に十分注意してください。
- ・ 緊急操作スイッチの操作で電動モーターを20秒以上作動させないでください。電動モーターの焼き付きにより作動不良になる恐れがあります。
- ・ 電動モーターの作動が20秒を超えた場合は、緊急操作スイッチのレバーから手を離して、電動モーターを3分以上停止させてください。

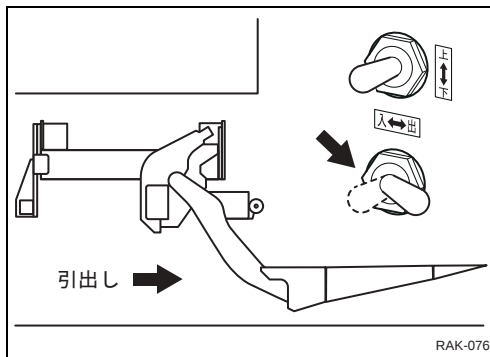
● プラットホームの作動不具合現象

番号	不具合現象	緊急操作	注意事項
1	「引出し」操作時、プラットホームが車両後方に引出されない。（「下」ボタンを押しても動作しない。）	緊急操作方法の(1)、(6)、(7)、(8)の順に操作を行ってください。	緊急操作で荷物の昇降は、絶対に行わないでください。
2	「引出し」操作時、プラットホームが車両後端まで引出されるが自動的に降下しない。		
3	「上げ」操作時、プラットホームが格納方向にスライドする。		
4	「下げ」操作時、プラットホームが下らない。	緊急操作方法の(1)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)、(8)の順に操作を行ってください。	
5	「格納」操作時、プラットホームが地面をこすりながら格納される。	緊急操作方法の(1)～(8)の順に操作を行ってください。	—
6	「格納」操作時、プラットホームが格納する高さになっても格納方向にスライドせず、上昇を続ける。	緊急操作方法の(1)、(3)、(5)、(6)、(7)、(8)の順に操作を行ってください。	—
7	「格納」操作時、プラットホームが格納位置約10cm手前で上昇しない。（「下」ボタンを押しても動作しない。）	緊急操作方法の(1)、(7)、(8)の順に操作を行ってください。	—
8	「格納」操作時、プラットホームが格納位置約10cm手前で上昇するがプラットホームの落下防止材とスライドルールのガイド材が接触する。	緊急操作方法の(1)、(7)、(8)の順に操作を行ってください。	—

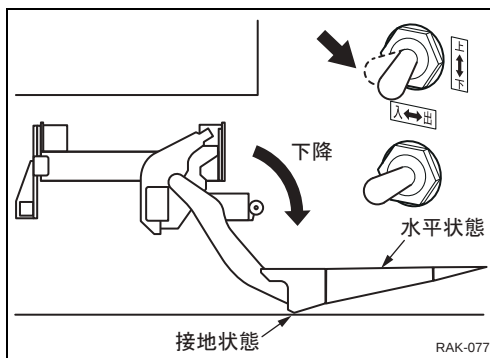
● 緊急操作方法



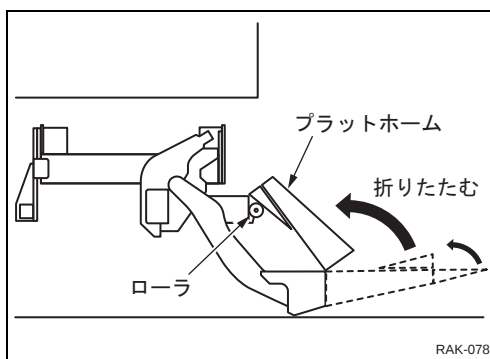
(1) カバーを開けます。



(2) 緊急操作スイッチのレバーを「出」方向に倒してプラットホームを引出します。

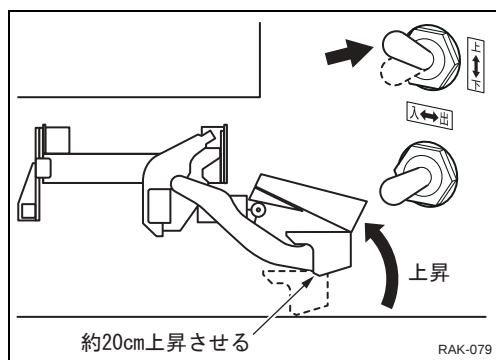


(3) 緊急操作スイッチのレバーを「下」方向に倒してプラットホームを接地させ、水平状態にします。



(4) プラットホームC、Bを折りたたみ、ローラに確実に立てかけます。

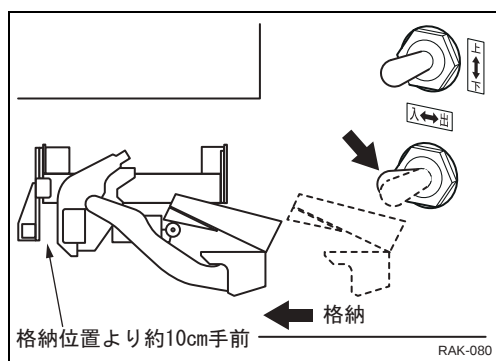
4. 操作方法



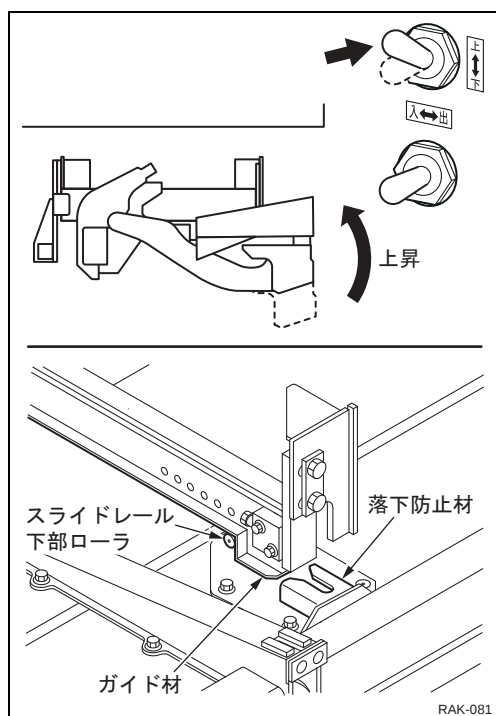
- (5) 緊急操作スイッチのレバーを「上」方向に倒してプラットホームを地面より約20cm上昇させます。

▲ 注意

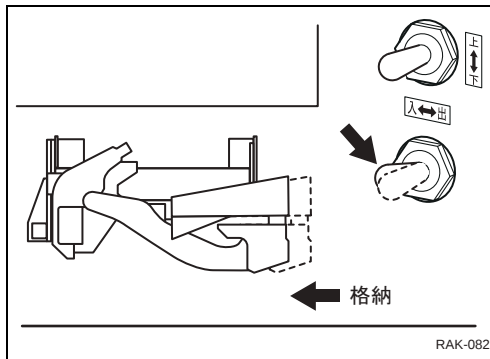
緊急操作スイッチのレバーを「上」方向に倒し続けると、車両とプラットホームが接触し、損傷します。プラットホームと車両が接触しないことを確認しながら操作を行ってください。



- (6) 緊急操作スイッチのレバーを「入」方向に倒してプラットホームを格納位置の約10cm手前まで移動させます。このときプラットホームがスライドレールに当たらないことを確認します。プラットホームがスライドレールに当たる場合は、緊急操作スイッチのレバーを「上」または「下」の方向に倒してプラットホームの高さを調整します。



- (7) 緊急操作スイッチのレバーを「上」方向に倒してプラットホームを上昇させ、スライドレール下部ローラに軽く当てます。このときプラットホームの落下防止材とスライドレールのガイド材に当たらないことを確認します。落下防止材とガイド材が当たる場合は、緊急操作スイッチのレバーを「出」方向に倒してプラットホームの高さを調整します。



- (8) 緊急操作スイッチのレバーを「入」方向に倒してプラットフォームを格納します。格納できない場合は、緊急操作スイッチのレバーを「下」方向に倒してプラットフォームとスライドレール下部ローラの当たりを弱くします。

参考

プラットフォームとスライドレール下部ローラの当たりが強いと格納方向に作動しない場合があります。

- (9) カバーを閉じます。

M E M O

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is white with a thin black border and occupies the majority of the page below the title.

5. 日常点検とお手入れ

5-1. 安全を守るために.....52

- 日常点検 52
- 点検および手入れの準備 52

5-2. 点検52

- 作動油の点検 52
- 高圧ホースの点検 52
- スライド動作の点検 53
- スライドパッドの点検 53
- スクレーパの点検 53
- コンプレッションアームの点検 54
- 作動油の交換 54
- 高圧ホースの交換 54
- ヒューズの交換 54
- ラジコンスイッチの電池交換 55
- ラジコンスイッチの交換 56

5-3. トラブルシューティング.....57

5. 日常点検とお手入れ

5-1. 安全を守るために

● 日常点検

本装置をご使用になられる方は、その日の作業を開始する前に、日常点検を行ってください。日常点検を確実に行うことによって異常の早期発見につながり適切な対応が可能となり、性能を維持して本装置を安全で能率的に長期間で使用いただくことができます。

6章「点検整備方式」のチェックリストに基づき点検を行い、安全作業に心がけてください。
⇒詳細はP.61「6-3. 定期点検整備」へ

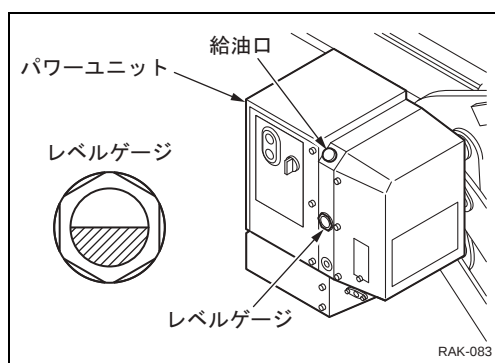
● 点検および手入れの準備

点検のための安全対策

- (1) 傾斜のない平坦地に車両を駐車します。
- (2) 駐車ブレーキをかけます。
- (3) タイヤ歯止めをかけます。
- (4) エンジンを停止させます。

5-2. 点検

● 作動油の点検



- (1) 装置を格納（車両走行姿勢）状態にします。
- (2) パワーユニットのレベルゲージで作動油量を確認します。
- (3) パワーユニット、高圧ホース、シリンダ部の接続部などからの油漏れがないか確認します。

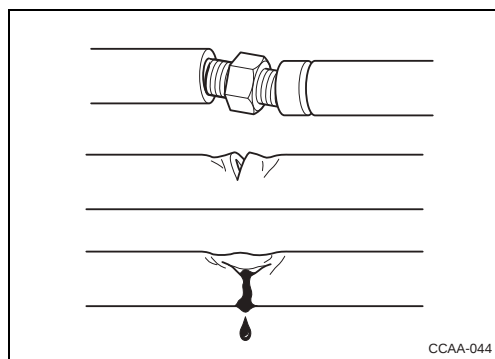
油漏れがある場合は、各部の増締めを行ってください。

参考

締付トルク30N・m。

作動油不足、または増締めを行っても作動油漏れが発生する場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に補給または修理をご依頼ください。

● 高圧ホースの点検

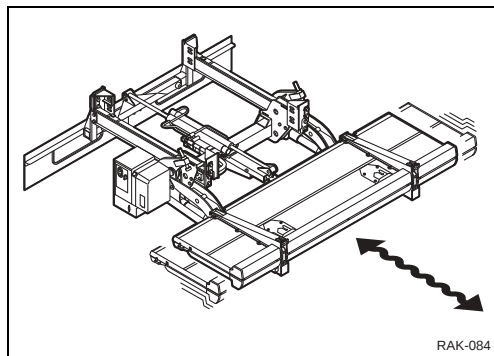


高圧ホースに関して次の箇所を点検してください。

- ・ 高圧ホースに付着した泥やほこりなどの清掃。
- ・ 外周面・湾曲部分・取付金具付近の亀裂や局部的なふくらみなどの外部損傷。

異常がある場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に交換をご依頼ください。

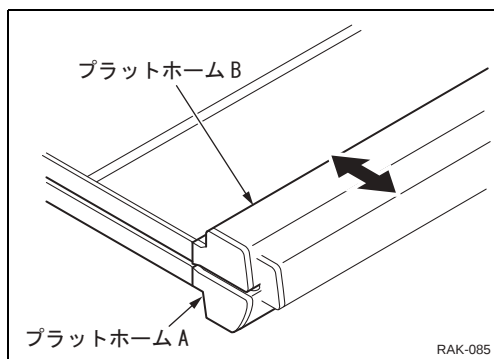
● スライド動作の点検



スライド作動中にプラットホームが左右または上下に揺れ続けることがないか点検してください。異常がある場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に点検をご依頼ください。

参考

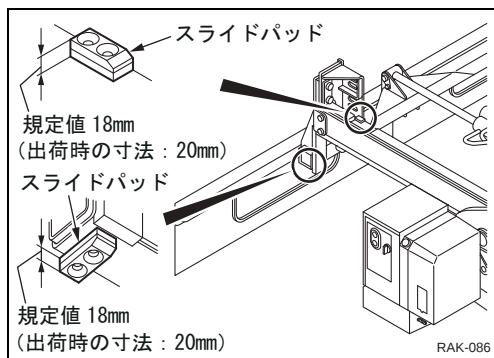
構造上、スライド動作開始時および停止時にプラットホームが左右または上下に揺れることがありますが、異常ではありません。



参考

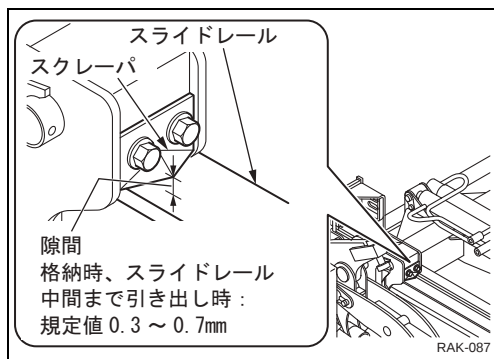
構造上、プラットホームを折りたたんだ状態でプラットホームAに対してプラットホームBの車両左側が動くことがありますが、異常ではありません。

● スライドパッドの点検



スライドパッドは、走行中の負荷を受ける部品です。スライドパッドの厚さを点検してください。スライドパッドの厚さが規定値以下の場合、スライドローラに負担がかかり、スライドローラまたはスライドレールの損傷につながります。規定値以下の場合、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に交換をご依頼ください。

● スクレーパの点検



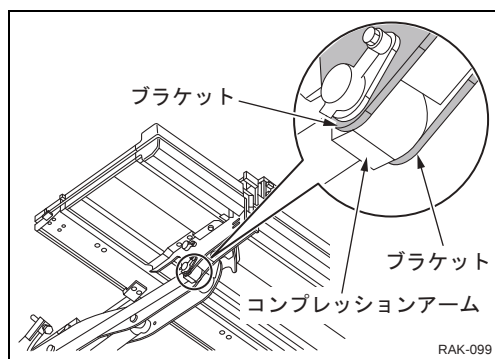
スクレーパは、スライドレールのゴミ除去のための部品です。スクレーパとスライドレールの隙間を点検してください。隙間が規定値内にない場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に交換をご依頼ください。

▲ 注意

スクレーパとスライドレールの隙間が規定値内にない場合、本装置は損傷する恐れがあります。

5. 日常点検とお手入れ

● コンプレッションアームの点検



コンプレッションアームは、本装置が昇降動作時に接地する部分です。長期間使用しているとコンプレッションアームがすり減り、プラットホームの損傷を招く恐れがあります。コンプレッションアームの両脇にあるブラケットが地面に接地していないか点検してください。ブラケットが地面に接地する場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場にお問い合わせください。

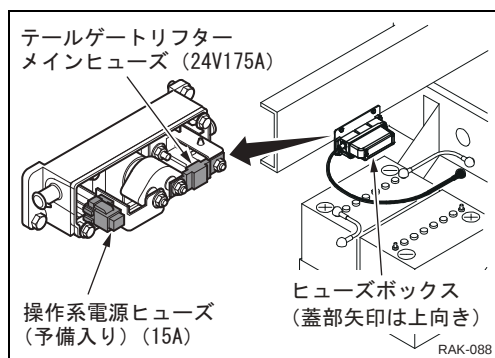
● 作動油の交換

作動油は劣化しますので、初回は3か月目、後は12か月ごとに全量を交換してください。
⇒詳細はP.60 「6-2. 定期交換部品」へ

● 高圧ホースの交換

高圧ホースは、材質の特性上、経年変化により劣化しますので、24か月ごとに交換してください。
⇒詳細はP.60 「6-2. 定期交換部品」へ

● ヒューズの交換



装置が作動しない場合、ヒューズが切れている可能性があります。

参考

ヒューズ切れの目安として、メインスイッチを「ON」にしてもパイロットランプが点灯しない場合、ヒューズ切れの可能性があります。なお、キースイッチ式★にはパイロットランプはありません。

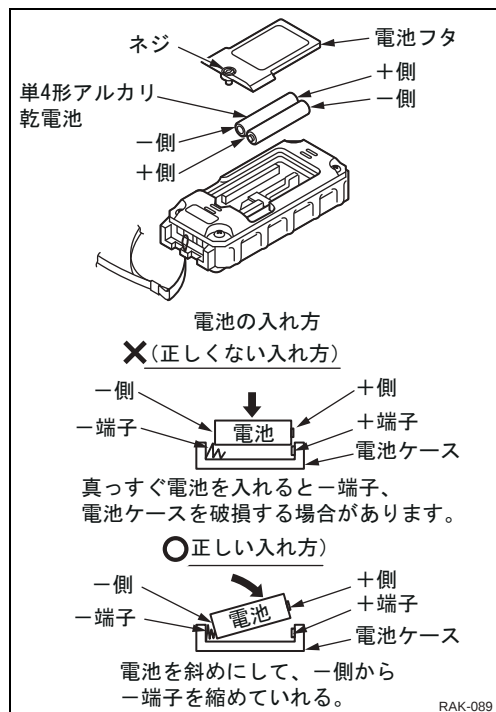
交換する場合は、規定容量のヒューズを使用してください。

▲ 注意

規定容量以外のヒューズや針金等を使用すると火災や装置損傷の原因になります。

ヒューズを交換しても、すぐに切れる場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場に点検をご依頼ください。

● ラジコンスイッチの電池交換



- (1) ラジコンスイッチの電池フタのネジを緩め、電池フタを取外してください。

⚠ 警告

電池フタの取外し以外にラジコンスイッチの分解や改造をしないでください。法律で禁止されています。

- (2) ラジコンスイッチに入っている電池を取出し、新品の単4アルカリ乾電池2本と交換してください。

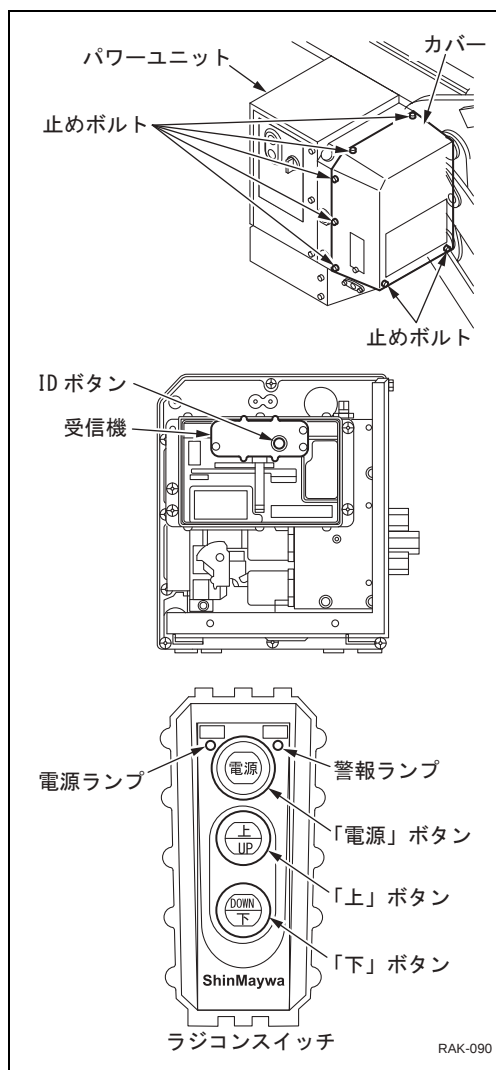
推奨電池：東芝製 アルカリ1 (LR03AG)

⚠ 注意

- 電池の入れ方に注意してください。
- 電池交換は、2本同時に行い同じ電池を使用してください。
- パナソニック製乾電池エボルタ単4形 (LR03EJ) は、接触不良を起こす恐れがあるので使用しないでください。
- 充電式乾電池は電圧不足になる恐れがあるので使用しないでください。

5. 日常点検とお手入れ

● ラジコンスイッチの交換



ラジコンスイッチを交換する場合は、ラジコンスイッチと受信機のID登録が必要になります。

▲ 注意

1台のラジコンスイッチには、1台の受信機のみID登録できます。複数台のラジコンスイッチ、受信機の登録は、誤作動を防止するため登録できません。

次の手順に従ってID登録をしてください。

- (1) パワーユニットのカバーを取外します。
- (2) メインスイッチを「ON」にします。
- (3) 受信機のIDボタンを1秒以上、押し続けます。
- (4) 受信機のIDボタンから手を離します。
- (5) 約2秒（1～4秒）後に受信機のIDボタンを押し直します。
- (6) 3秒以上、そのまま押し続けると約3秒後に受信機のIDボタンが低速点滅（1秒間に1回点滅）します。

▲ 注意

IDボタンが低速点滅しない場合は、メインスイッチを「OFF」にして(2)からやり直してください。

- (7) 受信機のIDボタンから手を離します。
- (8) ラジコンスイッチの「電源」ボタンを1秒以上押し続け、電源ランプが赤色で点灯後も押し続けます。
- (9) ラジコンスイッチの「電源」ボタンを押したまま、ラジコンスイッチの「上」ボタンを押します。
- (10) 受信機のIDボタンが低速点滅から高速点滅（2秒間に5回点滅）した後、消灯したら受信機のID登録は完了です。
- (11) 受信機のID登録完了後に、ラジコンスイッチの「電源」ランプが緑色で3秒間に8回点滅した後、消灯したらラジコンスイッチのID登録は完了です。
- (12) ラジコンスイッチでプラットホームが正常に作動することを確認します。
- (13) メインスイッチを「OFF」にします。
- (14) パワーユニットのカバーを取付けます。

参考

(6)～(8)の操作は、10秒間以内で行ってください。

5-3. トラブルシューティング

不具合が発生した場合は、下記を参考に処置を行ってください。処置を行っても不具合が解消されないときは、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。

現象	原因	処置
メインスイッチの電源が入らない。	ヒューズが切れている。	ヒューズを交換する。 ⇒詳細は P54 「ヒューズの交換」 へ
プラットホームが作動しない。	バッテリー電圧が低下している。(警告ランプが点灯している)	メインスイッチを「OFF」にし、エンジンを始動し、バッテリーを十分に充電した後、メインスイッチを「ON」にする。
	プラットホーム上に昇降質量以上の積荷が載っている。	プラットホーム上から積荷を降ろし、昇降作動を確認する。
	作動油が不足している。	新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。
	モーター、ブラシやコンタクトが損傷している。	
	アースコードの取付けボルトがゆるんでいる。	
ラジコンスイッチの電源ボタンを押すと警報ランプ(赤色)が高速点滅する。	電池が消耗している。	電池を交換する。 ⇒詳細は P55 「ラジコンスイッチの電池交換」 へ
メインスイッチを「ON」にした状態で、ラジコンスイッチの電源ボタンを押すと電源ランプが赤色で点滅する。	ラジコンスイッチとパワーユニット(受信機)の間に障害物がある。	障害物を避けて、ラジコンスイッチをパワーユニットに向けて操作する。
	ラジコンスイッチとパワーユニット(受信機)の距離が離れている。	電波通信可能な範囲内で操作する。
	ID 登録されたラジコンスイッチを使用していない。	正しい組み合わせのラジコンスイッチを使用する。
ラジコンスイッチの電池の消耗が早い。	マンガン電池や充電式電池を使用している。	電池を交換する。 ⇒詳細は P55 「ラジコンスイッチの電池交換」 へ
	新しい電池と古い電池を混用している。	
ラジコンスイッチの電源ボタンを押しても電源ランプが点灯しない。	ラジコンスイッチの電池ケース内の端子と電池の端子が接触不良をおこしている。	電池を正しく入れ直す。 ⇒詳細は P55 「ラジコンスイッチの電池交換」 へ
	電池が液漏れしている。	電池を交換する。 ⇒詳細は P55 「ラジコンスイッチの電池交換」 へ
	使用禁止の乾電池(パナソニック製乾電池エボルタを使用している。	
	電池が消耗している。	

5. 日常点検とお手入れ

現象	原因	処置
プラットホームが引出されない。	スライドパッドの潤滑不足。	(1) 緊急操作スイッチレバーを「下」の方向に約 1 秒倒した後、プラットホームの引出し操作を行う。 (2) スライドパッドに給脂する。 ⇒詳細は P.66 「7-2. 給油脂箇所」へ

6.点検整備方式

6-1. 定期点検60

●定期点検の実施.....60

6-2. 定期交換部品60

●定期交換部品.....60

6-3. 定期点検整備61

●定期点検整備チェックリスト61

6. 点検整備方式

6-1. 定期点検

● 定期点検の実施

本装置をご使用になられる方は、その日の作業を開始する前に、日常点検を行ってください。日常点検を確実に行うことによって異常の早期発見につながり適切な対応が可能となり、性能を維持して本装置を安全で能率的に長期間で使用いただくことができます。また、一定期間毎に新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場で点検整備を必ず受け、あなたの安全を確保し、お車の故障を防止してください。

6-2. 定期交換部品

● 定期交換部品

次に示す部品は材質などが経年変化するため、定期交換し十分な機能を確保してください。なお、下記交換時期は標準的な使用条件のもとで定めたものです。異常がある場合は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。

番号	定期交換部品	推奨交換時期
1	作動油	初回3か月目、以降12か月ごと
2	高圧ホース	24か月ごと
3	モーターまたはブラシ	60か月ごと
4	コンタクタ	60か月ごと

注意

- ・ ブラシは、装置の使用状況によって、60か月以内で消耗することがあります。異常を感じたら、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へお問い合わせください。
- ・ 油脂や部品の交換は、専門的な知識および設備が必要なため、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場にご依頼ください。

6-3. 定期点検整備

● 定期点検整備チェックリスト

チェックリストに示した点検項目は、一定期間ごとに、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場で点検整備を必ず受けてください。

チェックリストの印は次のとおりです。

○印：弊社が推奨する点検整備時期です。

◎印：弊社が推奨する定期交換時期です。

チェックリスト									
点検項目	点検内容	点検整備時期						判定基準	処置
		日常点検	3か月ごと	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	60か月ごと		
プラットホーム	変形、曲がり、亀裂			○					修正
	取付ボルトのゆるみ				○				増締め
	ブッシュの摩耗、焼付					○			交換
	塗装剥離、錆				○				補修塗装、交換
	コンプレッションアーム取付ブラケット	○							交換
	キャスタストッパ	作動、ガタ、高さ	○						給脂、交換
		異物の噛み込み	○						除去
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
	キャッチ	かかり具合、ガタ	○						給脂、交換
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
	チルトストッパ★	作動、ガタ	○						給脂、交換
リンクメカ関係	コンプレッションアーム	変形、曲がり、亀裂		○					交換
		ブッシュの摩耗、焼付				○			交換
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
		塗装剥離、錆			○				補修塗装、交換
	リフトアーム	変形、曲がり、亀裂		○					交換
		ブッシュの摩耗、焼付				○			交換
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
		塗装剥離、錆			○				補修塗装、交換

6. 点検整備方式

チェックリスト									
点検項目	点検内容	点検整備時期						判定基準	処置
		日常点検	3か月ごと	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	60か月ごと		
リンクメカ関係	ブラケット類	変形、曲がり、亀裂		○					交換
		ブッシュの摩耗、焼付				○			交換
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
		塗装剥離、錆			○				補修塗装、交換
	ピン類	摩耗、ガタ		○					交換
		取付ボルトのゆるみ			○				増締め
	スライドローラ	固着、摩耗				○		外径52mm以下	交換
	サイドローラ	固着、摩耗				○		偏摩耗	交換
	スライドパッド	摩耗、ガタ			○			厚さ(規定値)18mm以下	交換 ⇒詳細はP.52「5-2.点検」
	スクレーパ	摩耗、隙間			○			隙間(規定値)0.3～0.7mm	交換 ⇒詳細はP.52「5-2.点検」
油圧・配管関係	パワーユニット	異音	○						修正
		油漏れ	○						パッキン交換、本体交換
		バルブ切替不良			○				修正・清掃
		カバー内部の堆積物			○				清掃
	シリンダ	油漏れ	○						パッキン交換、本体交換
	配管、継手	油漏れ							増締め、パッキン交換
	高圧ホース	汚れ	○						清掃
		亀裂	○						交換
		局部的なふくらみ	○						交換
		油漏れ	○			◎			増締め、交換

チェックリスト										
点検項目		点検内容	点検整備時期						判定基準	処置
			日常点検	3か月ごと	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと	60か月ごと		
油圧・配管関係	作動油	汚れ		◎初回		◎				交換
		油量	○						レベルゲージ窓部下端以下	補給※
電気関係	ラジコンスイッチ	損傷、接触不良、切替不良	○							交換
		警報ランプの高速点滅	○							電池交換 ⇒詳細はP.52「5-2.点検」
	リモコンスイッチ	損傷、接触不良、切替不良	○							交換
	配線	損傷、接触不良、端子のガタ				○				修正
	センサ	検知不良	○							修正
	モーター、ブラシ	損傷、接触不良、作動不良	○					◎		交換
	コンタクタ	損傷、接触不良、切替不良	○					◎		交換
	バッテリーコード	損傷、端子のガタ	○							交換
		取付ボルトのゆるみ				○				増締め
	バッテリー	車両の点検整備要領書による（自動車メーカ発行）								
アースコード	損傷、端子のガタ	○							交換	
	取付ボルトのゆるみ				○				増締め	
警告ラベル		文字やイラストのインクの濃さ、はがれ、汚損	○							交換

備考：

- (1) チェックリストに定めるものの他、道路運送車両法に基づく点検整備を励行してください。
- (2) ※印の作動油補給は、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場へご依頼ください。
- (3) 給油脂箇所は、7章の給油脂を参照してください。⇒詳細はP.66「7-2. 給油脂箇所」へ

M E M O

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is defined by a thin black border and occupies the majority of the page area below the title.

7.給油脂

7-1. 適用グリース66

7-2. 給油脂箇所66

7. 給油脂

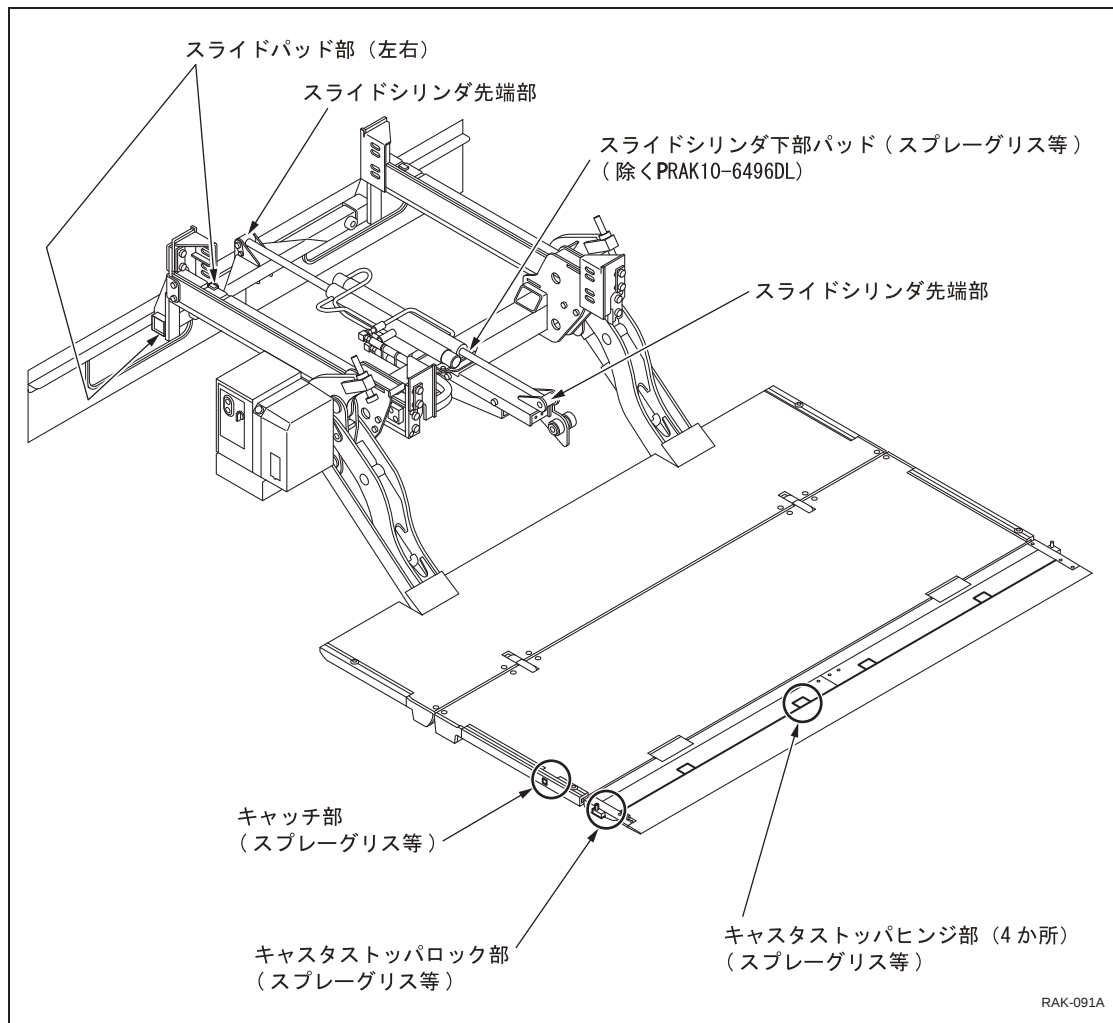
7-1. 適用グリス

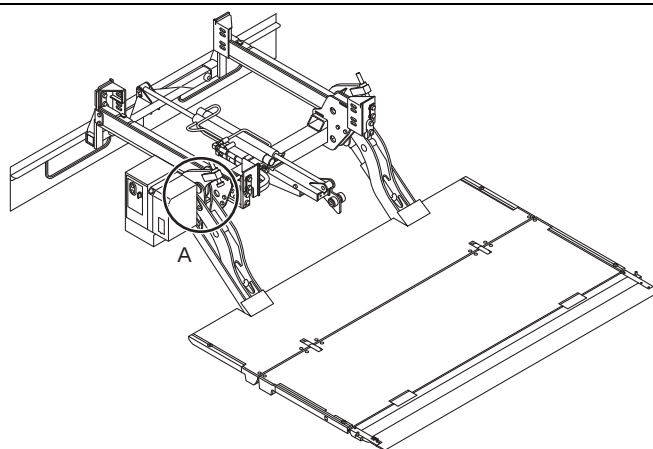
本装置には、JIS K 2220-2013自動車用シャシグリス（リチウム系グリス）を使用してください。

7-2. 給油脂箇所

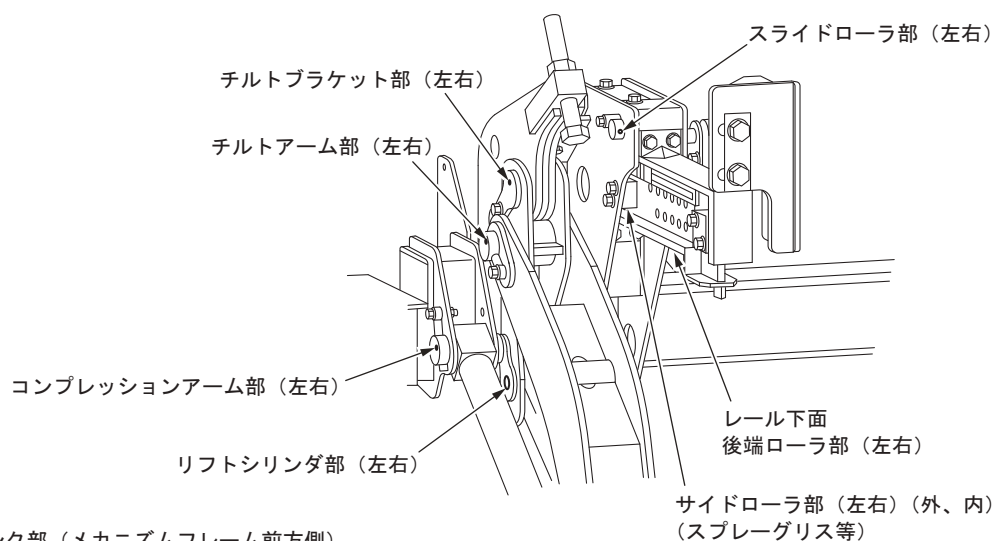
給油脂は、最低月1回行ってください。なお、高圧洗浄後は、必ず給油脂を行ってください。

イラストに示す箇所に給油脂を行ってください。

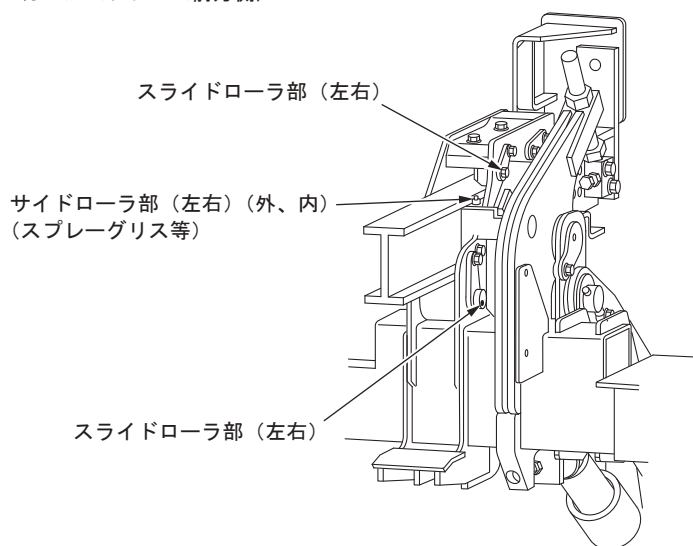




A. リンク部（メカニズムフレーム後方側）

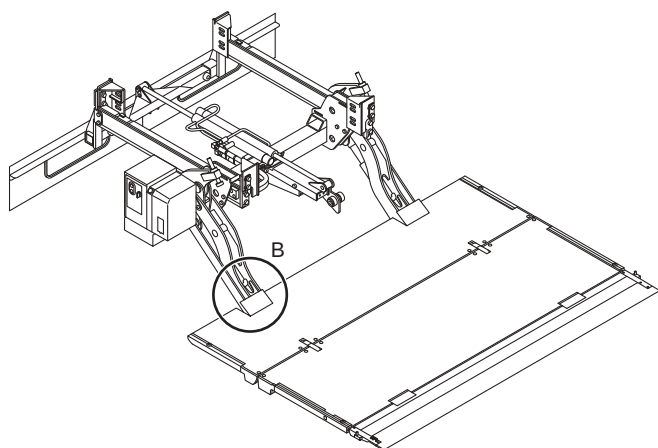


A. リンク部（メカニズムフレーム前方側）

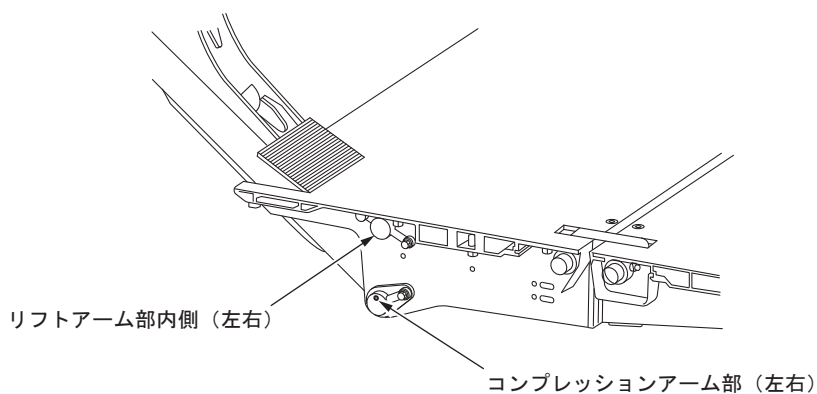


RAK-092A

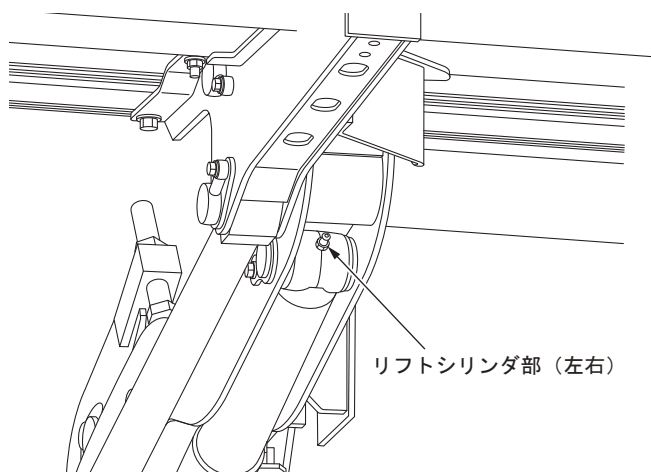
7. 給油脂

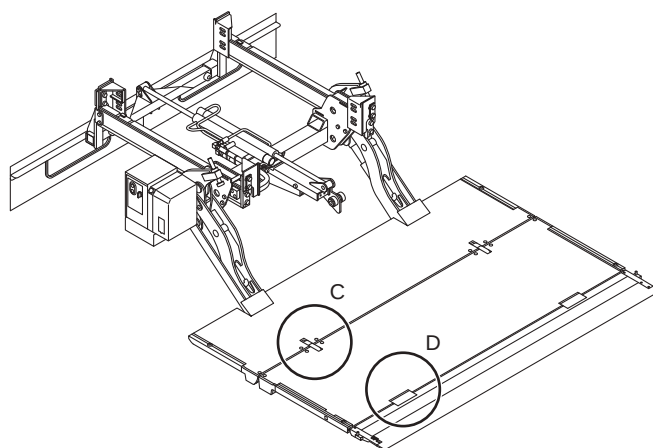


B. リンク部（プラットフォーム側）



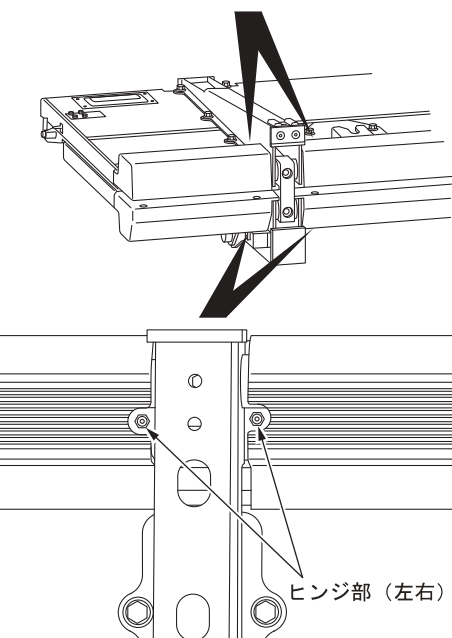
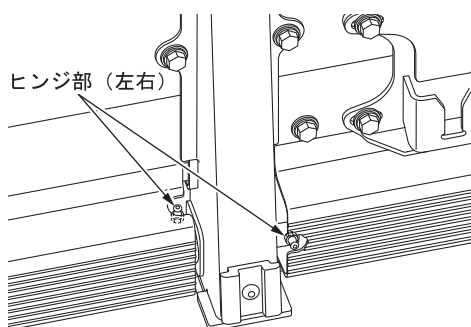
B. リフトシリンダ部





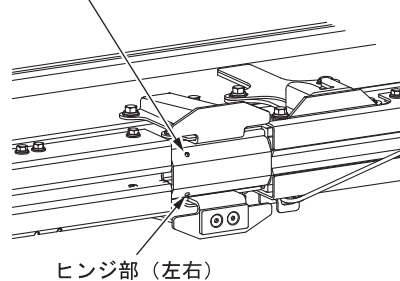
C. ヒンジ部（プラットフォーム A, B 間）

PRAK10-6496DL 以外



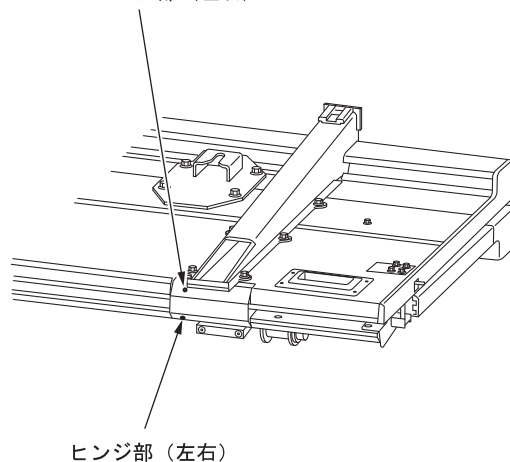
PRAK10-6496DL

ヒンジ部（左右）



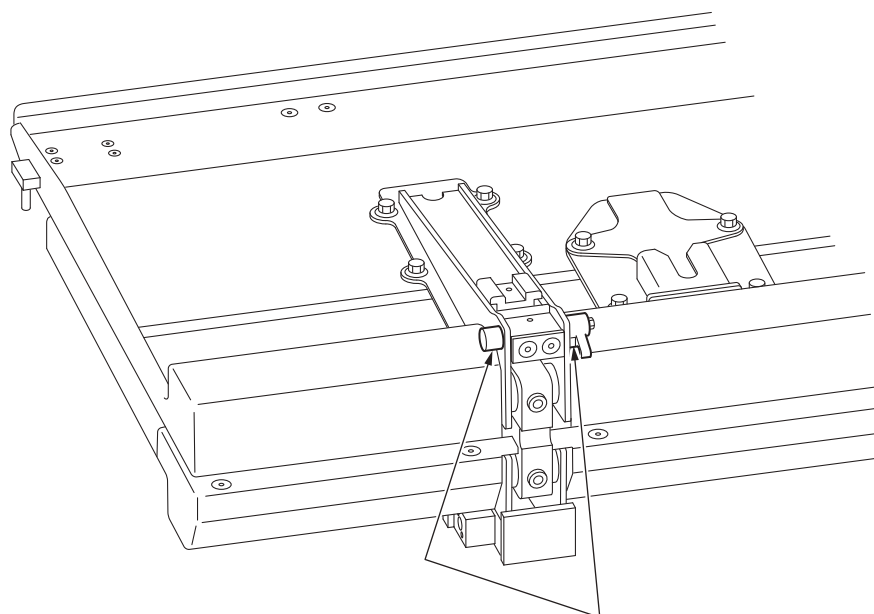
D. ヒンジ部（プラットフォーム B, C 間）

ヒンジ部（左右）



7. 給油脂

床面手動チルト機構付★



チルトストッパ
(スプレーグリス等)

RAK-094

8.その他関連情報

8-1. 架装物の安全点検制度.....72

8-2. 環境基準適合および解体マニュアル73

8. その他関連情報

8-1. 架装物の安全点検制度

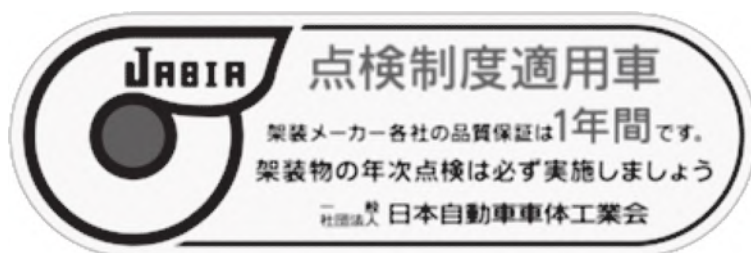
本書に記載の架装物は、(一社)日本自動車車体工業会が定める「架装物の安全点検制度」の対象製品です。(専用ステッカーにて表示。)

安全・安心に末永く本装置をご使用いただくためにも、必ず本書記載の点検整備を実施してください。

特に年次点検や点検結果にもとづく整備、部品交換に関しては、専門的な技術と設備のある、新明和オートエンジニアリング、または弊社指定サービス工場にご依頼ください。

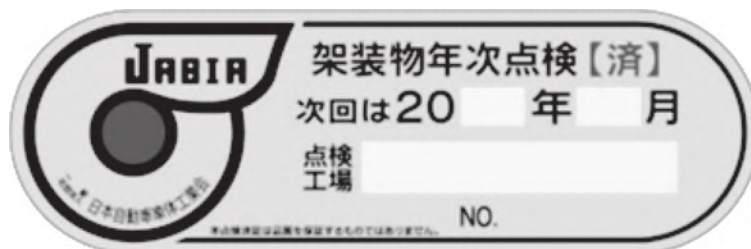
年次点検を実施した架装物には、「架装物年次点検【済】」ステッカーを貼り付けします。

「点検制度適用車」ステッカー



「架装物年次点検【済】」ステッカー

※ (1年ごとに色が異なります。)



8-2. 環境基準適合および解体マニュアル

本書に記載の架装物は、自動車リサイクル法の対象外ではありますが、弊社は（一社）日本自動車車体工業会の一員として（一社）日本自動車車体工業会の「商用車架装物のリサイクルに関する自主取組み」を基本とし、使用済み商用車架装物のリサイクルに対して積極的に取り組んでおります。

1) （一社）日本自動車車体工業会「環境基準適合」

テールゲートリフタ付トラック車の架装物は、（一社）日本自動車車体工業会の定める「新環境基準」に適合した製品です。



2) 使用済み商用車架装物 解体マニュアル

テールゲートリフタの解体マニュアルは、弊社ホームページまたは（一社）日本自動車車体工業会ホームページにてご提供しております。

M E M O

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is defined by a thin black border and occupies the majority of the page area below the title.

9.残留リスクについて

9-1. 機械ユーザーによる保護方策が必要な 残留リスク一覧.....	76
9-2. 残留リスクマップ.....	85
9-3. 事故情報提供のお願い.....	86

9. 残留リスクについて

9-1. 機械ユーザーによる保護方策が必要な 残留リスク一覧

本資料は、改正労働安全衛生規則第24条の13およびその通知を促進するための指針（機械譲渡者等が行う機械に関する危険性等の通知の促進に関する指針）に沿って作成したものです。

本製品には安全装置が装備されており、安全志向で設計されていますが、残留リスクがあります。残留リスクを更に軽減するために、機械ユーザーが実施できる対策は、本資料に示されています。

※ 残留リスクは、以下の定義に従って分類し記載しています。

⚠ 危険：取扱いを誤った場合、死亡または重傷につながる事項。

⚠ 警告：取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性がある事項。

⚠ 注意：取扱いを誤った場合、軽傷および物的損傷の可能性のある事項。

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
1	使用	走行時	普通免許 準中型 免許 中型免許 大型免許	プラット ホーム	警告	追突や積荷が落下する恐れがある。	プラットホーム を開いた状態で 走行しない。	P14
2	使用	走行時		プラット ホーム	警告	走行中にプラットホームが飛び出 し重大な事故につながる恐れがある。	プラットホーム を確実に格納す る。	P14
3	使用	走行時		装置全体	注意	装置の損傷や故障の原因となる恐 れがある。	車両等をけん引 しない。	P14
4	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	積荷の落下や装置が故障する恐れ がある。	プラットホーム を次のように使 用しない。 ・渡り板として の使用（除く床 面手動チルト機 構付き） ・プラットホー ム先端をかけな いで荷物の積載 ・フォークリフ トの乗り上げ ・渡り板かけ ・プラットホー ムからプラット ホームへの荷移 し	P15
5	使用	作業時		プラット ホーム	警告	傾斜地、不整地、障害物のある場 所で作業するとプラットホームが 傾き積荷が落下する恐れがある。	作業は、平坦な 場所で駐車ブ レーキを確実に かけて行う。	P15

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
6	使用	作業時	—	装置全体	警告	暗い場所での作業は、追突の恐れがある。	夜間等、周囲が暗い場所では、ハザードランプ等を点滅させて積み降ろしを行う。	P15
7	使用	作業時	—	プラットホーム	警告	プラットホームに乗って昇降操作を行うと転落等の思わぬ事故につながる恐れがある。	積荷以外をプラットホームに載せて昇降操作を行わない。	P16
8	使用	作業時	—	ラジコンスイッチ リモコンスイッチ	警告	テールゲートの動作が確認できない位置でスイッチ操作を行うと思わぬ事故につながる恐れがある。	ラジコンスイッチおよびリモコンスイッチの操作は、必ずテールゲートの動作が確認できる位置で行う。	P16
9	使用	作業時	—	キャスト ストッパ	警告	積荷によりプラットホームの後端が下がる傾斜により積荷が落下する恐れがある。	台車など車輪が付いている物や、転がりやすいものを積む場合は、必ずキャストストッパを使用する。	P16
10	使用	作業時	—	キャスト ストッパ	警告	車輪直径6cm～15cm以外の車輪直径については、キャストストッパを乗り越えて荷物が落下する恐れがある。	車輪直径15cmを超える荷物を載せない。	P16
11	使用	作業時	—	プラットホーム キャスト ストッパ	警告	積荷によりプラットホームの後端が下がる傾斜により積荷が落下する恐れがある。	キャストストッパより後ろに積荷をしない。	P17
12	使用	作業時	—	プラットホーム	警告	重いものを載せる場合、プラットホームが大きく傾き積荷が落下する恐れがある。	重いものは注意して荷台からプラットホームに載せる。	P17
13	使用	作業時	—	プラットホーム	警告	台車が荷台に接触し転倒する恐れがある。	架装型式により、適用する台車全長未満の台車を使用する。	P17
14	使用	作業時	—	プラットホーム	警告	扉が全開になっていない場合、扉とプラットホームに積荷がはさまり重大な事故につながる恐れがある。	観音扉の場合は、原則として扉を全開にしストッパで固定してから昇降操作を行う。90°～120°のストッパを使用する場合は、確実にストッパで扉を固縛する。	P17

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
15	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	プラットホームが完全に接地して傾斜していないと荷物を降ろしたときにプラットホームが跳ね上がり荷物が転倒する恐れがある。	プラットホームが接地して停止した後「下」ボタンを2～3秒間押し続ける。	P18
16	使用	作業時	—	ラジコン スイッチ リモコン スイッチ	警告	低温度内の荷箱内に放置すると作動不良を起こす恐れがある。	冷凍車の場合、使用時以外はラジコンスイッチまたは庫内リモコンスイッチをキャブ内に保管する。	P18
17	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	床面手動チルト機構が装着されており、チルトストッパを渡り板モード状態にしている場合に昇降操作を行うと、プラットホームBが傾斜しているため積荷が落下する恐れがある。	床面手動チルト機構が装着されている場合、左右2ヶ所あるチルトストッパが通常モード状態にあることを確認して昇降操作を行ってください。	P18
18	使用	作業時	—	チルトス トッパ	警告	・左右2ヶ所あるチルトストッパのモード切替えを確実に行わず中途の状態になっているとチルトストッパが突然動き、プラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがある。 ・片方だけ通常モードで、もう片方を渡り板モードにする使い方をするとプラットホームBが傾斜して積荷が落下する恐れがある。	床面手動チルト機構が装着されている場合、渡り板モードのときは、チルトストッパを両方ともに渡り板モードにする。作業終了後は、プラットホームBを立ててチルトストッパを両方とも通常モードの位置にする。	P18
19	使用	作業時	—	リモコン スイッチ	警告	荷箱内に放置すると荷物や誤操作によって装置が不意に作動し思わぬ事故につながる恐れがある。	使用時以外は、庫内リモコンスイッチをキャブ内に保管する。	P19
20	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	・最大昇降質量以上の積荷を昇降させると各装置部の損傷や故障の原因となる恐れがある。 ・積荷をプラットホームの端や先端に載せるとプラットホームが傾き、装置の変形や故障の原因となる恐れがある。	積荷は必ず最大昇降質量以下で、プラットホームの中央付近に荷崩れしないように載せる。	P19
21	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	積荷がプラットホームからはみ出している場合、荷台とプラットホームに積荷がはさまり重大な事故につながる恐れがある。	積荷はプラットホームからはみ出さないように載せる。	P19

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
22	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームを操作するときは、作動範囲内に人や障害物がないことを確認しないとケガ、物損等の思わぬ事故につながる恐れがある。	プラットホームを操作するときは、作動範囲内に人や障害物がないことを確認してから操作する。また、プラットホームの作動範囲内には絶対入らない。	P19
23	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームを操作するときは、作動部から離れた位置で操作しないと、はさまれ、転倒等思わぬ事故につながる恐れがある。	プラットホームを操作するときは、作動部から十分離れ、接触しない位置で操作する。	P20
24	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームを下げた状態で積荷の積み降ろしを行う場合、荷台との段差で転倒や転落の恐れがある。	プラットホームを下げた状態で積荷の積み降ろしを行う場合、荷台との段差に注意する。	P20
25	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	降雨時や降雪時など天候によりプラットホーム上が滑りやすくなるので、転倒等の恐れがある。	プラットホーム上が濡れていないか確認し、慎重に作業する。	P20
26	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームを開閉するとき、プラットホームに手や足がはさまれる等の恐れがある。	手や足がはさまれないように注意しながらプラットホーム先端付近を持って開閉を行う。	P20
27	使用	作業時	—	アーム カバー	注意	プラットホームのアームカバー上に積荷をした状態で昇降操作すると、アームカバーが作動し荷崩れを起こす恐れがある。	プラットホームのアームカバー上に積荷をしない。アームカバー上に積荷がある状態で昇降操作は行わない。	P21
28	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームが傾斜した状態で格納すると装置を損傷させる恐れがある。	プラットホームは接地し、かつ水平状態で格納する。	P21
29	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームにフォークリフトが乗り上げると、プラットホームが損傷する恐れがある。	プラットホームにフォークリフトを乗り上げない。	P21
30	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	荷重が集中するとプラットホームが損傷する恐れがある。	ハンドリフターなどの荷重が集中する台車を使用しない。	P21

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
31	使用	作業時	—	パワー ユニット	注意	電動モーターの使用制限を超えて使用すると電動モーターが焼きつき、作動不良の原因になる。	ボタンを押し続けてパワーユニットの電源モーターを20秒間以上作動させない。	P22
32	使用	作業時	—	メイン スイッチ	注意	メインスイッチやキー式メインスイッチが「ON」状態、のままだと、装置が不意に作動し思わぬ事故につながる恐れがある。	作業終了後、または車両から離れる場合は、メインスイッチを「OFF」にし、パイロットランプが必ず消灯していることを確認する。キー式メインスイッチの場合は、キーを抜く。	P22
33	保守	点検整備	—	パワー ユニット	注意	電装品に水が入ると故障の原因となる恐れがある。	パワーユニットを高圧洗浄しない。	P24
34	使用	作業時	—	ラジコン スイッチ	注意	10台以上の装置搭載車両が密集し、他の車両もラジコンで操作されている状況において、装置をラジコンで操作する場合は、電波障害により操作できない恐れがある。	ラジコンシステムの電波到達範囲内でのテールゲートリフタの同時操作は最大10台までのため、他のテールゲートリフタの操作が終了してから操作する。	P24
35	使用	作業時	—	ラジコン スイッチ	注意	ラジコンスイッチの損傷や故障の原因になる恐れがある。	ラジコンスイッチを投げたり、落としたりしない。	P24
36	保守	点検整備	—	ラジコン スイッチ	注意	ラジコンスイッチを長期間使用しない場合、電池が液漏れする恐れがある。	ラジコンスイッチを長期間使用しないときは、電池を外して保管する。	P24

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
37	保守	点検整備	—	ラジコン スイッチ	注意	ラジコンスイッチの電池交換は、定められた同じ種類の電池を2本同時に交換しないと、作動不良の原因となる恐れがある。	・交換する電池は、新品の単4型アルカリ乾電池（2本）を使用する。 推奨電池：東芝製 アルカリ1（LR03AG） ・電池交換は、2本同時に行い同じ電池を使用する。 ・電池の入れ方に注意する。 ・パナソニック製乾電池エボルタ単4型（LR03EJ）は、接触不良を起こす恐れがあるため使用しない。 ・充電式乾電池は電圧不足になる恐れがあるので使用しない。	P25 P55
38	使用	作業時	—	ラジコン スイッチ	注意	不意にボタンが押され、意図せずに装置が動き出す恐れがある。	ラジコンスイッチは、ポケットに入れて持ち歩かない。	P25
39	使用	作業時	—	ラジコン スイッチ	注意	指定以外のストラップを使用すると電波障害が発生する恐れがある。	ラジコンスイッチにあらかじめ取付けられているストラップ以外使用しない。	P26
40	使用	作業時	—	キャスト ストッパ	注意	・台車を勢いよくキャストストッパに当てると台車が転倒する恐れがある。 ・キャストストッパを格納しないでプラットフォームを格納すると、装置等を損傷させる恐れがある。	・キャストストッパに台車を当てるときは、キャストストッパが立ち上がっていることを目視で確認し、ゆっくり当てる。 ・プラットフォームを格納するときは、必ずキャストストッパを格納する。	P36
41	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	プラットフォームBの先端が接地していない状態で使用すると、プラットフォームが不意に傾斜して、積荷が転倒する恐れがある。	プラットフォームBを渡り板として使用する場合は、プラットフォームBの先端をターミナルフロアに接地させて使用する。	P37

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
42	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームBを渡り板として 使用する場合、段差範囲を逸脱し て使用すると装置等の損傷、積荷 の落下等の恐れがある。	プラットホーム Bを渡り板とし て使用する場合 は、段差範囲を 厳守する。	P37
43	使用	作業時	—	チルト ストッパ	警告	・左右2か所あるチルトストッパ のモード切替えを確実にせず中 途の状態になっているとチルトス トッパが突然動き、プラットホー ムBが傾斜して積荷が落下する恐 れがある。 ・片方だけ通常モードで、もう片 方を渡り板モードにする使い方を するとプラットホームBが傾斜し て積荷が落下する恐れがある。	床面手動チルト 機構が装着され ている場合、渡 り板モードのと きは、チルトス トッパを両方と もに渡り板モー ドにする。作業 終了後は、プ ラットホームB を立ててチルト ストッパを両方 とも通常モード の位置にする。	P37 P38
44	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	・傾斜地、不整地、障害物がある 場所での作業は積荷が落下する恐 れがある。 ・エンジンを停止せずに危険物を 昇降させた場合、引火する恐れが ある。	・作業は平坦な 場所で駐車ブ レーキを確実に かけて行う。 ・危険物の昇降 時には必ずエン ジンを停止す る。 ・作動不具合が 発生した場合は、プラット ホームの緊急操 作を参照して対 処する。	P40
45	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	荷物を降ろしたときのプラット ホームが跳ね上がり、思わぬ事故 につながる恐れがある。	プラットホーム が接地して停止 した後も「下」 ボタンを2～3 秒間押し続け る。	P42
46	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームが停止してからボ タンを押し続けて電動モーターを 20秒間以上作動させると、電動 モーターが焼き付き、作動不良の 原因となる恐れがある。	プラットホーム が最上昇して停 止したらボタン から手を離す。	P43
47	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームが傾斜した状態で 格納されると装置を損傷させる恐 れがある。	プラットホーム が接地し、水平 状態であることを 確認する。	P44
48	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	プラットホームが地面から10cm以 上の位置で折りたたむと、スライ ド時に装置を損傷させる恐れがあ る。	プラットホーム が接地または地 上から10cm未 満の位置で折り たたむ。	P44

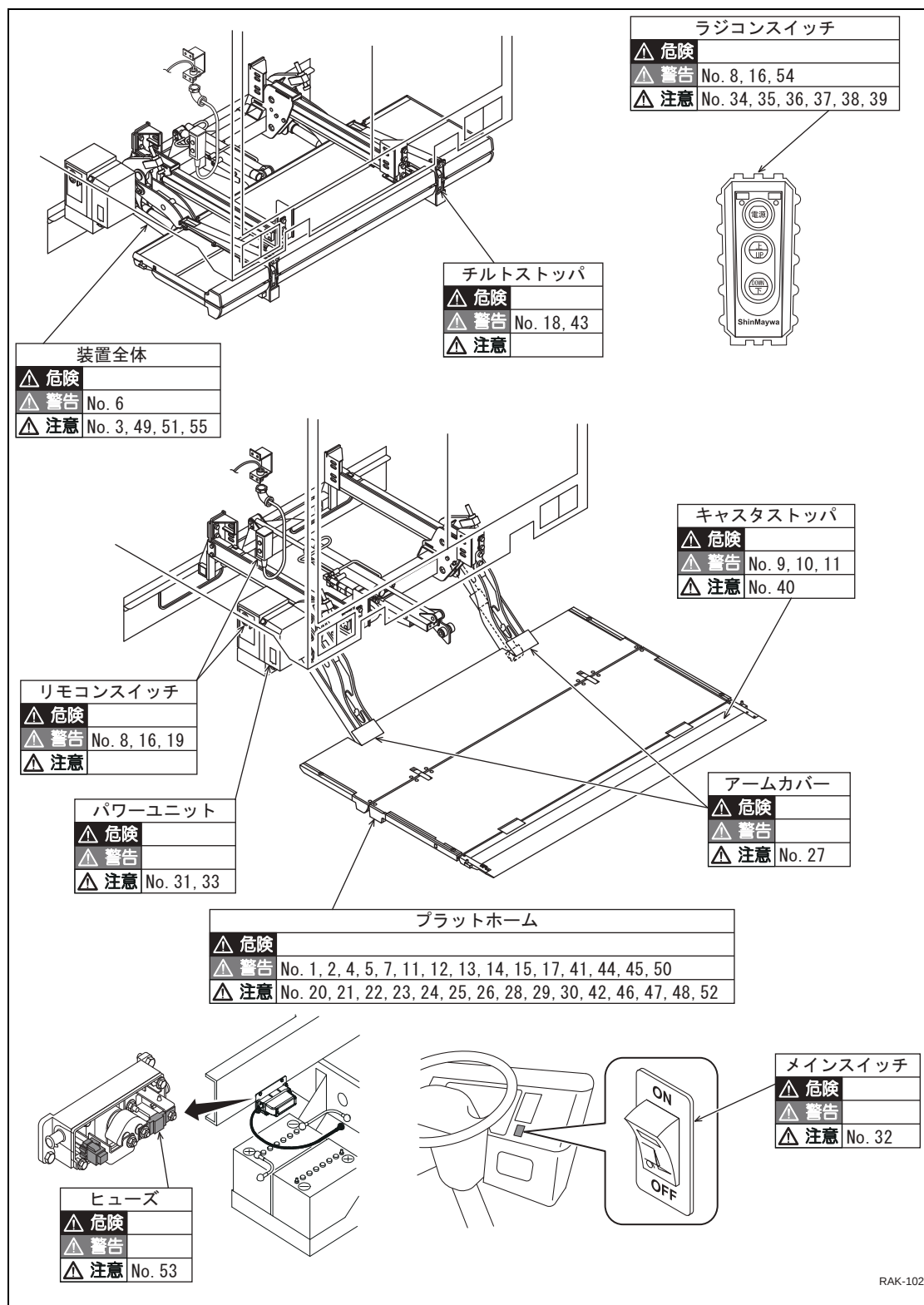
9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
49	使用	作業時	—	装置全体	注意	プラットホームの自動格納時には さまれ、接触の恐れがある。	プラットホーム が自動格納動作 をしている時 は、作動部から 十分離れ、接触 しない位置で操 作する。絶対に 作動部へ手、足 等をいれない。 自動格納動作を 停止する場合 は、「上」また は「下」のボタ ンを押す。	P45
50	使用	作業時	—	プラット ホーム	警告	緊急操作での荷物の昇降は、荷物の 転倒や思わぬ事故の恐れがある。	緊急操作での荷 物の昇降は、絶 対に行わない。	P46
51	使用	作業時	—	装置全体	注意	・緊急操作は通常の操作とは異なる ため思わぬ事故の原因になる恐れ がある。 ・電動モーターの焼き付きにより 作動不良になる恐れがある。	・緊急操作の場 合は周囲に十分 注意する。 ・緊急操作ス イッチの操作で 電動モーターを 20秒以上作動 させない。 ・電動モーター の作動が20秒 を超えた場合は、緊急操作ス イッチのレバー から手を離し て、電動モー ターを3分以上 停止させる。	P46
52	使用	作業時	—	プラット ホーム	注意	緊急操作スイッチのレバーを「上」 方向に倒し続けると、車両とプ ラットホームが接触し、損傷する。	プラットホーム と車両が接触し ないことを確認 しながら操作を 行う。	P48
53	保守	点検整備	—	ヒューズ	注意	規定容量以外のヒューズや針金等 を使用すると火災や装置損傷等の 原因につながる恐れがある。	交換する場合 は、規定容量の ヒューズを使用 する。	P54
54	保守	点検整備	—	ラジコン スイッチ	警告	電池フタの取外し以外のラジコン スイッチの分解や改造を行うと作 動不良の恐れがある（分解、改造 は法律で禁止）。	電池フタの取外 し以外にラジコ ンスイッチの分 解や改造を行わ ない。	P55

9. 残留リスクについて

No.	運用 段階	作業	作業に 必要な 法定資格 ・教育	機械上の 箇所	危害 の 程度	危害の内容	ユーザーが実施 する保護方策	取扱 説明書 参照 ページ
55	保守	点検整備	—	装置全体	注意	・電動モーターのブラシは、装置の使用状況によって、60か月以内に消耗することがあり、装置不動作の原因となる恐れがある。 ・勝手な作動油や部品の交換は、装置故障や思わぬ事故の原因となる恐れがある。	・経年変化する部品は定期交換し十分な機能を確保する。異常がある場合は新明和オートエンジニアリング、または指定サービス工場へ問い合わせる。 ・作動油や部品の交換は、専門的な知識及び設備が必要なため、新明和オートエンジニアリング、または指定サービス工場に依頼する。	P60

9-2. 残留リスクマップ



9. 残留リスクについて

9-3. 事故情報提供のお願い

平成26年4月15日付け基安発0415第2号で、「機械ユーザーから機械メーカー等への災害情報等の提供の促進要領」が厚生労働省労働基準局から通達されました。

この中で、機械メーカーは連絡窓口、連絡方法、事故情報等の連絡事項を取扱説明書などに明記すること、機械ユーザーは機械メーカーに情報を提供し、機械メーカーと連携して事故等の再発防止対策を講じることが求められています。

弊社でもこの通達に従い、弊社架装物（機械）による同種事故の再発防止および設計・製造段階での安全化促進を図るため、お客様から事故情報をご提供いただき、活用していく所存です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(1) 連絡窓口

事故情報は、弊社担当営業所まで電話等でご一報ください。

弊社担当営業所は、車載の取扱説明書に同梱されています「営業所・サービス拠点一覧表」でご確認いただけます。

(2) ご提供いただきたい内容

以下の事故報告書の連絡項目に関して、弊社まで事故情報をご提供ください。

事故報告書

報告日：	年 月 日	●事故の概要について
事故の区分	1. 人身事故の発生またはその可能性がある 2. 火災事故の発生またはその可能性がある	事故発生日時： 年 月 日 時 分 ころ [人身事故の場合] 被災者：1. 作業者 2. 作業者以外（ ） 性別（年齢）：1. 男 2. 女（ 歳） 被災状況（けがの部位・程度）：
●お客様について		
会社名（部署名）：		
氏名（役職）：		
住所：		[火災事故の場合] 発火源・着火物（断定できる場合）： 焼損範囲：
電話番号：		
FAX 番号：		
●事故車両について（製造プレート刻印）		事故に至る作業内容・経過：
架装型式：		
製造番号：		
お客様からのコメント		



株式会社 **パイコ**

神奈川県海老名市柏ヶ谷456番地 〒243-0402

取扱説明書 No.
S-19-R0172
22G150-1M